

甲斐市文化財調査報告書 第4集
(山 梨 県)

松ノ尾遺跡 X

商業施設開発に伴う古墳・平安時代の発掘調査報告書

2006

鈴木商事株式会社
甲斐市教育委員会

序 文

甲斐市には、山梨県最古の窯跡である「天狗沢窯跡」をはじめ、7世紀の群集墳である「赤坂台古墳群」、中世民間信仰の好例とされる経筒が出土した「塔之越経塚跡」、日本の治水事業の基礎とされる「竜王川除（信玄堤）」など甲斐市はもとより、山梨県史を解明する上でも大変重要な遺跡が多く残されております。

しかし、県都甲府市に隣接する本市は近年人口の急増が著しく、宅地造成工事や大型商業施設の建設など多くの開発事業が進み、本市教育委員会としましても埋蔵文化財を保護するための緊急発掘調査の対応が増加しております。

この「松ノ尾遺跡」は、縄文時代から室町時代までの人々の生活が凝縮された遺跡で、とくに、古墳時代から平安時代にかけては、この地が本県でも最も繁栄した地域の一つであったことがこれまでの発掘調査によって明らかになってきております。

今回報告する松ノ尾遺跡第X次調査は、ガソリンスタンド建設を原因とする緊急発掘調査であり、本書はその調査成果をまとめたものであります。

X次調査では弥生時代から平安時代までの住居跡や道路状遺構など貴重な資料の発見がありました。

今後は、調査で得られました多くの成果を後世へ伝えるとともに、調査研究、教育普及の資として多くの皆様幅広く活用していただけるよう努めてまいります。

終わりに、鈴木商事株式会社の文化財保護に対する深いご理解のもと調査が実施できましたことに感謝するとともに、ご指導、ご協力をいただきました関係各位に感謝申し上げます、序といたします。

平成18年3月

甲斐市教育委員会

教育長 中 込 豊 弘

例 言

1. 本書は山梨県甲斐市大下条に所在する松ノ尾遺跡の第X次調査をまとめた発掘調査報告書である。
2. 本調査は鈴与商事株式会社によるガソリンスタンド建設に先立ち、旧数島町文化財調査会が主体となり実施した。実務は同調査会より委託を受けた、㈱日本窯業史研究所が調査員を派遣し、数島町文化財調査会が行った。
3. 調査は試掘調査を小坂隆司（当時数島町教育委員会）が担当し、平成15年9月3日～9日までを行い、本調査を三輪孝幸（日本窯業史研究所）が担当し、平成15年9月30日～同年11月15日までの間実施した。
4. 本書の本文執筆、編集は、第1章を大嵩正之（甲斐市教育委員会）が担当し、その他を甲斐市教育委員会の指導のもと三輪が担当した。遺構写真は三輪が撮影し、遺物は中山哲也（日本窯業史研究所）が撮影した。最終校正は、大嵩、三輪が行った。
5. 本書に係る出土遺物及び記録図面、写真などは甲斐市教育委員会で保管している。
6. 調査組織は次のとおりである。

調査組織

- | | |
|-------------|-----------------|
| （発掘）調査指導・主管 | 数島町教育委員会 |
| 調査主体者 | 数島町文化財調査会 |
| 調査事務局 | 数島町文化財調査会 |
| （整理）調査主体者 | 甲斐市教育委員会 |
| 調査事務局 | 甲斐市教育委員会 |
| （総合）調査担当者 | 三輪孝幸（㈱日本窯業史研究所） |
7. 調査に係る費用は、鈴与商事株式会社が負担した。
 8. 報告書中水晶の項に関しては、下野風土記の丘資料館 篠原祐一氏よりご教示いただいた。
 9. 発掘・整理調査参加者
飯室久美恵、石川弘美、長田由美子、小林明美、小林素子、桜井理恵、高添美智子、堤古彦、穂坂美佐子、保延勇、望月典子、森沢篤美（敬称略）
 10. 調査主体者の変更は平成16年9月1日の自治体合併による。

凡 例

1. 挿図の北は磁北を示し、レベルは標高を表している。
2. 挿図の縮尺は調査区全体図1/300、遺構1/60、遺物1/3（第16図3水晶2/3）である。
3. 遺物番号は本文・挿図・観察表・図版で統一し、番号はゴシック体で表した。
4. 遺物観察表の中の寸法は（ ）が復元、〈 〉が現存の寸法を表す。
5. 遺構挿図中、●土器類出土位置、 硬化面、 焼土を示している。
6. 遺物挿図中、断面が白抜きは土器・土師器・土師質土器で、 は須恵器、 は陶器類、 は瓦である。
7. 遺物挿図中、 塗は、赤彩を示す。

本文目次

第1章 遺跡をとりまく環境	1
1. 遺跡の立地と環境	1
2. 松ノ尾遺跡の概要	1
第2章 遺構と遺物	5
1. 竪穴住居跡	5
2. 土坑	24
3. 溝	28
4. 集石・道路状遺構	30
5. 礫群	32
6. 遺構外・試掘調査出土遺物	34
第3章 まとめ	36

挿図目次

第1図 松ノ尾遺跡と周辺の遺跡	第23図 12号住居跡、2・3号土坑
第2図 調査区位置図	第24図 12号住居跡出土遺物
第3図 調査区全体図	第25図 13号住居跡
第4図 1号住居跡・カマド	第26図 13号住居跡出土遺物
第5図 1号住居跡出土遺物	第27図 14・15号住居跡
第6図 2・10号住居跡	第28図 14号住居跡出土遺物
第7図 2号住居跡カマド	第29図 15号住居跡出土遺物
第8図 2号住居跡出土遺物	第30図 16号住居跡
第9図 3号住居跡	第31図 16号住居跡出土遺物
第10図 3号住居跡出土遺物	第32図 17号住居跡
第11図 4号住居跡	第33図 17号住居跡出土遺物
第12図 4号住居跡出土遺物	第34図 土坑
第13図 5号住居跡	第35図 土坑出土遺物
第14図 5号住居跡出土遺物	第36図 3・5・6号溝
第15図 6・9号住居跡、1・2・4号溝	第37図 溝跡出土遺物
第16図 6号住居跡出土遺物	第38図 1号集石・道路状遺構
第17図 7・8号住居跡、6号土坑	第39図 1号集石・道路状遺構出土遺物
第18図 7・8号住居跡出土遺物	第40図 礫群
第19図 9号住居跡出土遺物	第41図 礫群出土遺物(1)
第20図 10号住居跡出土遺物	第42図 礫群出土遺物(2)
第21図 11号住居跡	第43図 遺構外・試掘調査出土遺物
第22図 11号住居跡出土遺物	

表 目 次

第1表	松ノ尾遺跡の各次調査概要	第15表	15号住居跡出土遺物観察表
第2表	1号住居跡出土遺物観察表	第16表	16号住居跡出土遺物観察表
第3表	2号住居跡出土遺物観察表	第17表	17号住居跡出土遺物観察表
第4表	3号住居跡出土遺物観察表	第18表	3号土坑出土遺物観察表
第5表	4号住居跡出土遺物観察表	第19表	4号土坑出土遺物観察表
第6表	5号住居跡出土遺物観察表	第20表	5号土坑出土遺物観察表
第7表	6号住居跡出土遺物観察表	第21表	8号土坑出土遺物観察表
第8表	7・8号住居跡出土遺物観察表	第22表	1号溝出土遺物観察表
第9表	9号住居跡出土遺物観察表	第23表	2号溝出土遺物観察表
第10表	10号住居跡出土遺物観察表	第24表	4号溝出土遺物観察表
第11表	11号住居跡出土遺物観察表	第25表	5号溝出土遺物観察表
第12表	12号住居跡出土遺物観察表	第26表	1号集石・道路状遺構出土遺物観察表
第13表	13号住居跡出土遺物観察表	第27表	礎群出土遺物観察表
第14表	14号住居跡出土遺物観察表	第28表	遺構外・試掘調査出土遺物観察表

図 版 目 次

図版1	A-2区全景(北から) A-3区全景(西から) 1号住居跡(北から) 1号住居跡カマド(北から) 2号住居跡(西から) 2号住居跡カマド(西から) 3号住居跡(北から) 3号住居跡遺物出土状 況(北から)
図版2	5号住居跡(南から) 5号住居跡遺物出土状況(南から) 7・8号住居跡(東から) 11号住居跡 (北から) 12号住居跡、2・3号土坑(南から) 13号住居跡(南から) 14・15号住居跡(南西か ら) 17号住居跡(南から)
図版3	3号土坑(西から) 3号土坑遺物出土状況(東から) 5号土坑(南から) 3号溝(南から) 5号 溝(南から) 道路状遺構(北東から) 道路状遺構セクション(西から) 礎群(南西から)
図版4	2~5・7・10・11・13号住居跡出土遺物
図版5	6・15号住居跡、土坑、溝跡、礎群、遺構外・試掘調査出土遺物

第1章 遺跡をとりまく環境

1. 遺跡の立地と環境 (第1図)

甲斐市は甲府盆地の北西部に位置し、甲府市の西側に隣接する。市内は地形形状の特徴から大きく4つの地域に分けることができる。

まず、市内北部は、茅ヶ岳、曲岳、太刀岡山など標高千メートルを越す山々が点在する山岳地帯で、急峻な地形を呈している。市西部は、茅ヶ岳の火山活動によって形成された台地が広がり、通称『登美台地』『赤坂台地』と呼ばれる茅ヶ岳南麓の丘陵地帯となる。市東部は、奥秩父山系の金峰山を源とする荒川が流れ、この荒川によって形成された扇状地帯となる。市南部は、南アルプス鋸岳を源とする釜無川(富士川)によって形成された扇状地帯である。

甲斐市は北部から中部にかけて山間地、丘陵地帯となり、南部は市の東西を流れる荒川、釜無川によってできた扇状地となる。市内標高は、最高が北部の1,703.5m、最低が南部の264.9mと標高差1,400mを超え、バリエーションに富んだ環境である。

報告する松ノ尾遺跡は市東部にあり、荒川によって形成された扇状地の扇頂部末端に位置し、微高地上に営まれた集落遺跡である。標高は290mを測る。

2. 松ノ尾遺跡の概要 (第2・3図)

本遺跡は、甲斐市との境界を流れる荒川と茅ヶ岳火山によって形成された通称『登美台地』との間に位置する。この台地と荒川の間(旧敷島町南部)には、南北に延びる2本の微高地があり、本遺跡は東側微高地上に営まれている。平成6年(1994)にはじめて調査が実施され、平成17年(2005)12月現在までに13回の本調査が行われており、遺跡範囲は現在までのところ南北700m、東西400mの広がりをもつことが明らかになった。今後の調査によって、さらに広範囲になることが予想される。

本遺跡は、縄文、弥生、古墳、奈良、平安、鎌倉、室町の各時代に亘る複合遺跡であり、遺跡の広い範囲で古墳時代後期の住居が発見されていることから、同時期の集落が大きく展開していることが明らかとなってきた。また、道路中央を東西に横断する都市計画道路愛宕町下条線の周辺から南側にかけては奈良、平安時代前半(8~10世紀)の住居跡など遺構群が出土している。そして、愛宕町下条線周辺から北側にかけて平安時代後半(11、12世紀)から中世にかけての遺構群が主に確認されている。

住居跡は、各時代を通してこれまでに120軒を超えており、特に古墳時代後期と平安時代全般にかけての遺構が顕著にみられる。住居跡と対比して掘立柱建物跡の件数は極僅かであり、本遺跡の特徴ともいえる。中世に入ると、掘立柱建物となる可能性があるピット群が確認され始めてきており、さらに土壌曝露も近年の調査によって確認されている。

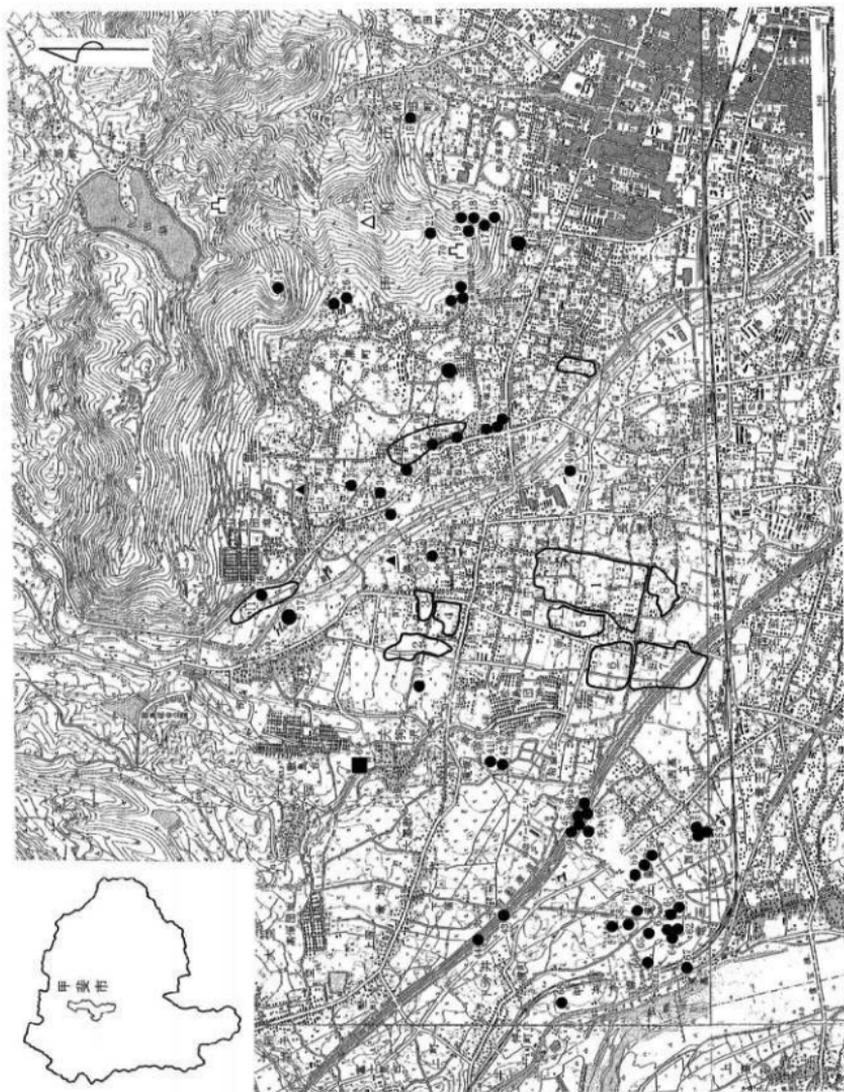
特に古代の遺物に限って見ると、遺構の分布傾向と同様に古墳時代後期の遺物は広範囲に認められる。

奈良、平安時代では、土師器、須恵器、灰釉陶器をはじめ膨大な量の遺物が出土している。特殊な物についてみると、塑像の螺髪、布日瓦、4個体分の円面硯、緑釉陶器(碗、皿、耳皿、椀碗)、壺G、貿易陶磁器の白磁、青白磁、青磁類(碗、皿、水注、帯瓶)、さらに金属製品では帯金具(鉄製鉸貝、銅製蛇尾貝)、銅碗片、銅製連葉金具、小銅削仏、土師質土器、白磁(碗・水注・壺)、青白磁碗、青磁碗。

以上のように、松ノ尾遺跡は、縄文時代から室町時代までの広範囲に及ぶ複合遺跡であるが、古墳時代から平安時代に一つの階層を向かえることが遺構、遺物から守守できる。特に7世紀後半から11世紀にかけての出上遺物を見ると、一般集落とは考え難く本県古代史を解明する上でも重要な遺跡である。

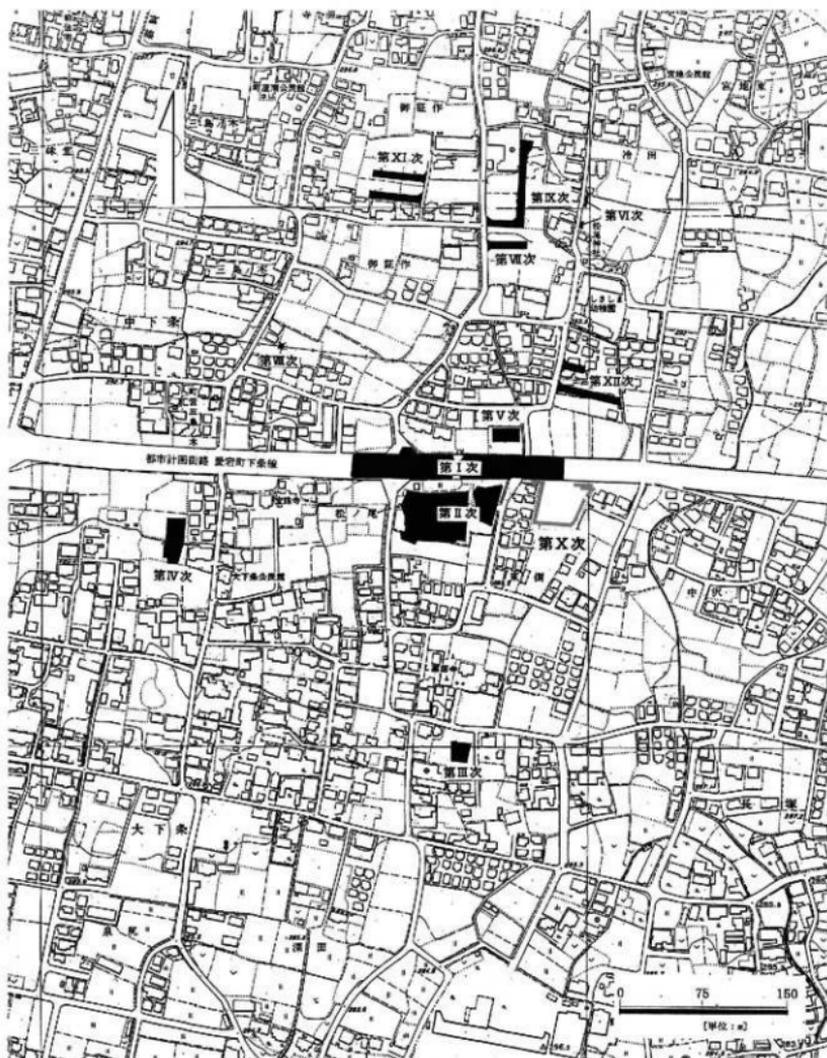
第1表 松ノ尾遺跡の各次調査概要 (●は遺構あり、△は遺物のみ)

No.	調査対象面積	時代						7~12世紀代の主な遺物
		縄文	弥生	古墳	奈良	平安	中世	
I次	7,000	△	△	△	●	●	●	円面硯(1個体)、緑釉陶器(碗・椀碗)、帯金具(鉄製・蛇尾貝)、銅碗片、銅製連葉金具、小銅削仏、土師質土器、白磁(碗・水注・壺)、青白磁碗、青磁碗
II次	2,000	△	●	△	●	●	●	円面硯(3個体)、瓦(3点)、多面蓋杯、緑釉陶器(碗・椀碗)、帯金具(鉄製)門・青磁碗
III次	250	●	●	△	●	●	●	緑釉陶器(碗・耳皿)、白磁碗(1軒一能/目高台)、青白磁碗、青磁碗、転用硯、長頸壺(壺G)
IV次	640	△	△	△	△	△	△	放射状暗文(盤状)杯、長頸壺(壺G)、緑釉陶器(碗・椀碗)
V次	250	△	△	△	●	●	●	放射状・螺髪状暗文杯、緑釉陶器碗、白磁(碗・水注)、青白磁皿、転用硯
VI次	80	△	△	△	●	●	●	土師器、土師質土器
VII次	375	△	△	△	●	●	●	螺髪、土師質土器、青磁(碗・皿)、硯
VIII次	64	●	●	△	△	△	△	土師質土器、青磁(碗・皿)
IX次	421	●	●	●	●	●	●	土師質土器、青磁碗、硯
X次	374	△	△	△	●	●	●	瓦(2点)、土師質土器
XI次	597				●	●	●	土師質土器、白磁、青白磁、銅製品
XII次	481	△	●	●	●	●	●	放射状(盤状)・螺髪状暗文杯、須恵器壺(8~9世紀)、緑釉陶器碗、転用硯

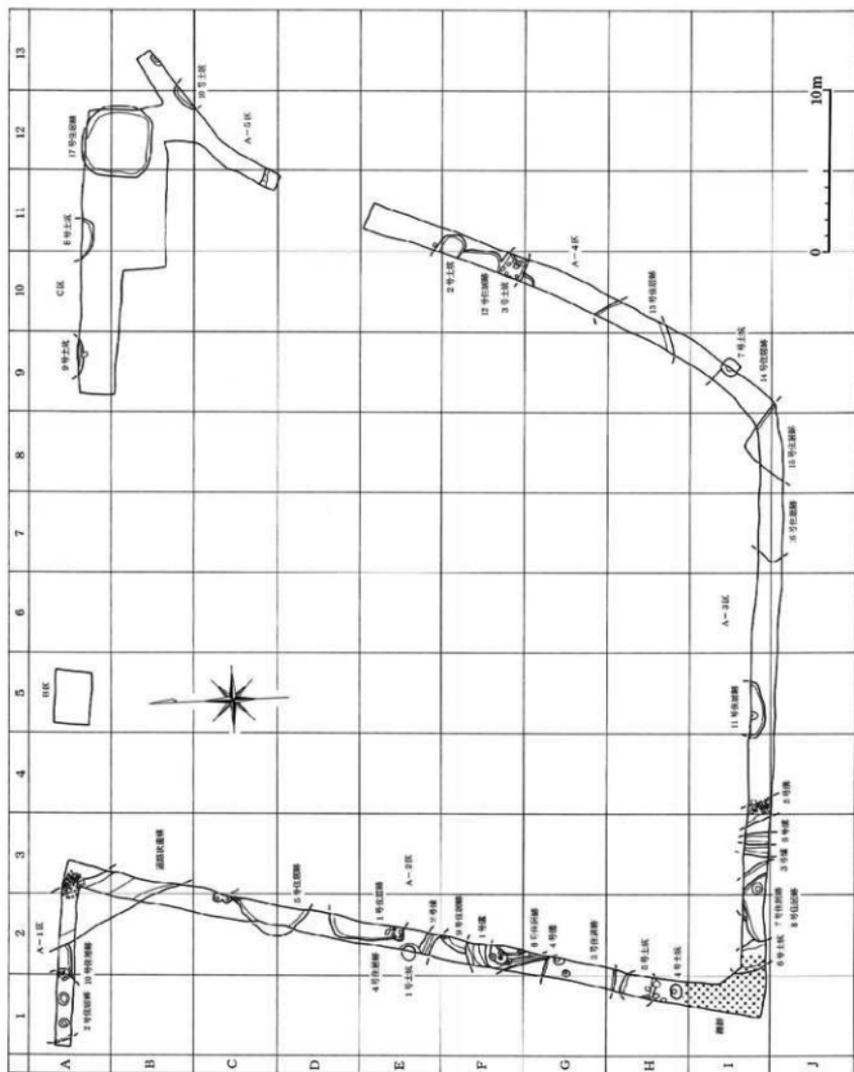


- 1 松ノ尾
 2 松ノ尾
 3 山王塚
 4 山王塚
 5 山王塚
 6 山王塚
 7 山王塚
 8 山王塚
 9 山王塚
 10 山王塚
 11 山王塚
 12 山王塚
 13 山王塚
 14 山王塚
 15 山王塚
 16 山王塚
 17 山王塚
 18 山王塚
 19 山王塚
 20 山王塚
 21 山王塚
 22 山王塚
 23 山王塚
 24 山王塚
 25 山王塚
 26 山王塚
 27 山王塚
 28 山王塚
 29 山王塚
 30 山王塚
 31 山王塚
 32 山王塚
 33 山王塚
 34 山王塚
 35 山王塚
 36 山王塚
 37 山王塚
 38 山王塚
 39 山王塚
 40 山王塚
 41 山王塚
 42 山王塚
 43 山王塚
 44 山王塚
 45 山王塚
 46 山王塚
 47 山王塚
 48 山王塚
 49 山王塚
 50 山王塚
 51 山王塚
 52 山王塚
 53 山王塚
 54 山王塚
 55 山王塚
 56 山王塚
 57 山王塚
 58 山王塚
 59 山王塚
 60 山王塚
 61 山王塚
 62 山王塚
 63 山王塚
 64 山王塚
 65 山王塚
 66 山王塚
 67 山王塚
 68 山王塚
 69 山王塚
 70 山王塚
 71 山王塚
 72 山王塚
 73 山王塚
 74 山王塚
 75 山王塚

第1図 松ノ尾遺跡と周辺の遺跡（甲斐市松島地区）



第2図 調査区位置図 (は第X次調査区) S=1:3000)



第3图 调查区分布图

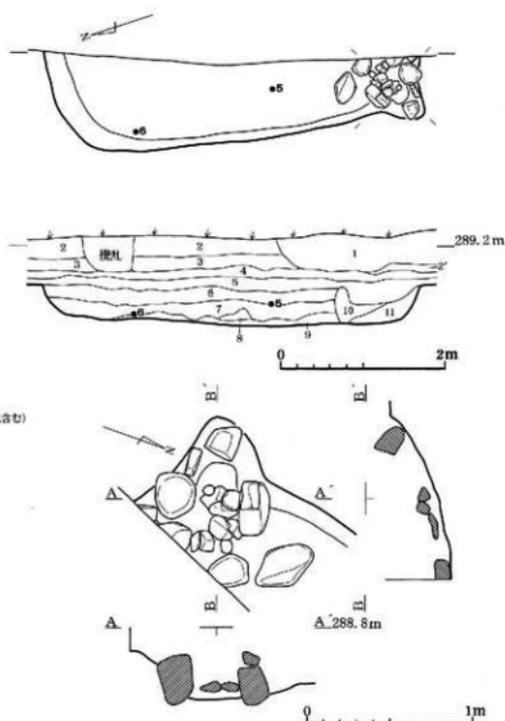
第2章 遺構と遺物

今次調査はガソリンスタンド建設に伴って行われた。調査区は調査対象地内の外周部分、広告塔、タンク部分の三ヶ所に分かれており、それぞれ、A区、B区、C区とした。また、A区は調査区の見通しが利かないため、コーナーで名称を分割し、A-1～5区と呼称した。尚、B区では遺構は確認できなかった。調査面積は374㎡である。

1. 竪穴住居跡

1号住居跡（第4・5図、第2表、図版1）

本跡はA-2区の中央、D・E-2グリットに位置し、4号住居跡を切っている。平面形は隅丸方形と推定され、規模は東西1.1m、南北4.5mを確認した。確認面からの深さ22cmを測る。壁は緩やかに外傾して立ち上がり、床面は平坦であるが貼り床は認められなかった。柱穴は確認できなかった。埋積土は暗灰褐色土を主体とする自然堆積である。



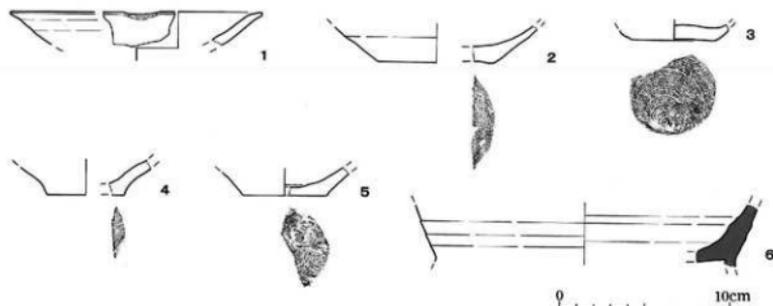
1. 灰色土（灰土）
2. 黄灰色土（跡まりなし、規模作土の灰土）
3. 黄灰色土（跡まりなし、近世以前の耕作土の灰土）
4. 暗灰褐色土（やや締まる、白色点多く炭化物若干、径0.5～1cm黄褐色土粒含む）
5. 暗灰褐色土（やや締まる、白色点多く、サビ痕含む）
6. 黄褐色土（やや締まる、白色粒、炭化物若干含む）
7. 黄褐色土（跡まりなし、粘り少ない）
8. 黄褐色土（跡まりなし、径1～2cmの黄褐色土塊少量含む）
9. 黄褐色土（跡まりなし、径2～3cmの黄褐色土塊多く含む）
10. 茶褐色土（跡まりなし、径1～2cmの灰色粘質土塊少量含む）
11. 茶褐色土（跡まりなし、焼土粒若干含む）

第4図 1号住居跡・カマド

カマドは南西隅に設けられ、両袖に川原石を使用した石組みカマドである。大きさは84×70cmを測る。右側の袖石は大形の礫を直立させ縦に設置し、その上に小ぶりの礫を乗せ高さを調節している。左袖は大形の礫を直立して設置されている。天井石は煙道寄りに1枚が遺存している。右袖の手前床面上から出土した礫はその大きさから天井石と推定される。カマド内に小礫が充填された状態で出土したが、カマドの構築材の一部と考えられる。埋積土は上層が茶褐色上で微量の焼土粒を含み、下層は灰色粘土で炭化物を若干含んでいる。明確な焼土層は認められなかった。火床は焚き口の床面上径10cmの範囲がやや焼けているのが認められた。

遺物はいずれも小破片で、床面上のものは認められなかった。土師質土器坏(1・2)、同小皿(3・4)はカマド埋積土中より出土した。

時期はカマド内出土の土器から11世紀後半と考えられる。



第5図 1号住居跡出土遺物

第2表 1号住居跡出土遺物観察表

No.	種別・器種	寸法 (cm)			色調	焼成	胎土	器形・調整の特徴	備考
		口径	底径	器高					
1	土師質土器・坏	(14.8)	(2.0)		暗茶褐色	良	密・金雲母多量		
2	土師質土器・坏		(7.0)	(2.3)	暗茶褐色	良好	密・金雲母多量	底部糸切り	
3	土師質土器・小皿		5.0	(1.0)	暗茶褐色	良好	密・金雲母多量	底部糸切り	
4	土師質土器・小皿		(4.6)	(2.2)	明茶褐色	良好	密・金雲母多量		
5	土師質土器・小皿	(5.0)		(1.7)	茶褐色	良好	密・金雲母多量	底部糸切り	
6	須恵器・甕			(3.7)	灰白色	良好	密		

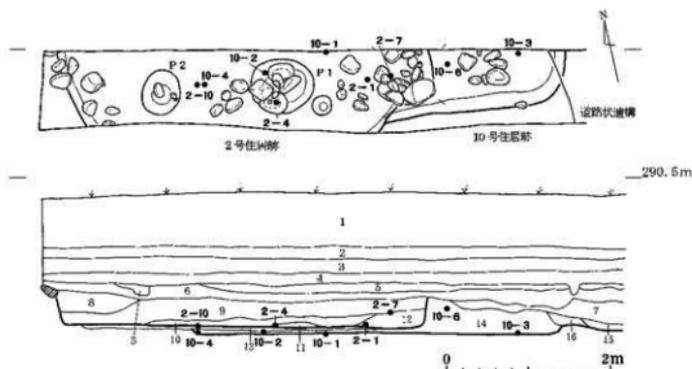
2号住居跡 (第6～8図、第3表、図版1・4)

本跡はA-1区、A-1グリッドに位置し、10号住居跡を切っている。平面形は不明、規模は東西に4.3mを確認した。確認面からの深さ60cmを測る。壁はやや外傾して立ち上がる。床面は平坦で貼り床が認められ、堅く締まっていた。また、P1周辺からカマド付近にかけて炭化物が薄く堆積していた。小穴は床面中央と西壁寄りに2個確認した。P1は径75cm、深さ21cm、P2は径45cm、深さ19cmである。

カマドは東側コーナー付近に設けられ、川原石を使用した石組みカマドである。大きさは南北70cm、東西75cmを測る。右袖は焚き口と壁際にそれぞれ長方形を呈する礫を立て袖石とし、その上に小ぶりの礫をもって高さを調節していた。左袖は焚き口の礫が内側に倒された状態で確認し、壁際のみが直立させた礫が遺存していた。また、礫の外側は灰白色の粘質土によって補強されていた。天井石は壁際に1枚が遺存し、小ぶりの礫によって支えられ、袖石の上に据えてあった。カマド内には径6cm、長さ6cmの支脚石が遺存していた。埋積土は炭化物が多く、焼土粒を若干含んだ茶褐色土であるが、焼土層は認められなかった。

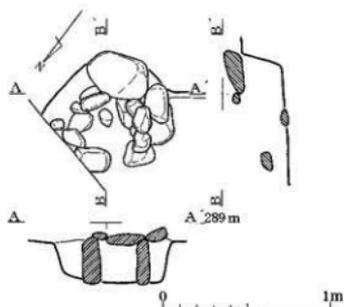
遺物は土師器環(2・3)がカマド焚口、同環(5~8)がカマド内、同環(4・9)、同脚高高台環(10)は床面上より出土した。

時期はカマド焚口より出土した土師器環(2・3)から10世紀後半と考えられる。

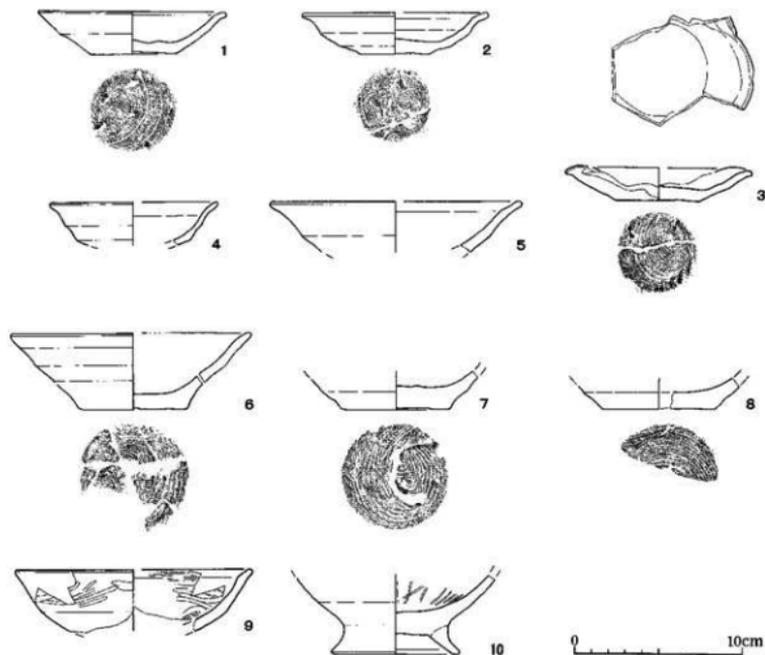


- | | |
|--|--|
| <p>1. 埴土(惣地)</p> <p>2. 灰色土(灰土)</p> <p>3. 黄灰色土</p> <p>4. 灰黄色土(白色粒、炭化物、サビ痕少量含む)</p> <p>5. 白色砂(灰色土層に於ける)</p> <p>6. 暗灰褐色土(やや硬まる、粘土質多量含む)</p> <p>7. 泥状褐色砂質土(硬まりなし、サビ痕若干含む)</p> <p>8. 茶褐色土(硬まりなし、黄色土若干混じる、1cmほどの炭少量含む)</p> | <p>9. 暗茶褐色土(硬まりなし、遺少量、白色粘着土含む)</p> <p>10. 暗茶褐色土(硬まりなし、硬少量、黄色土若干含む)</p> <p>11. 暗茶褐色土(硬まりなし、炭化物多量含む)</p> <p>12. 茶褐色土(硬まりなし、炭化物、径2~3cmの炭褐色土塊含む)</p> <p>13. 暗茶褐色土(硬く硬まる、粘土質多量含む、2号住居跡跡)</p> <p>14. 茶褐色土(硬まりなし、灰黄色土、炭化物若干含む)</p> <p>15. 暗茶褐色土(硬まりなし、粘土若干、炭化物若干含む)</p> <p>16. 暗茶褐色土(硬く硬まる、上面に溝がある)</p> |
|--|--|

第6図 2・10号住居跡



第7図 2号住居跡カマド



第8図 2号住居跡出土遺物

第3表 2号住居跡出土遺物観察表

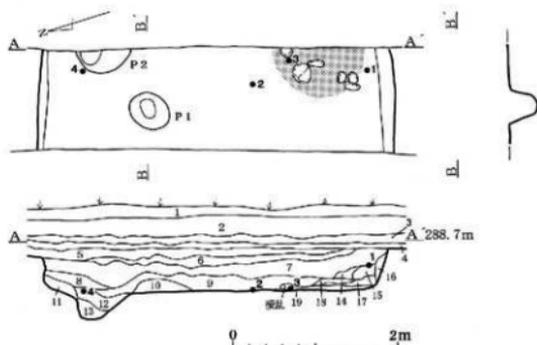
No.	種別・器種	寸法 (cm)			色調	焼成	胎土	器形・調整の特徴	備考
		口径	底径	器高					
1	土師器・坏	11.0	5.1	2.65	茶褐色	良好	緻密・赤色粒子	底部糸切り	
2	土師器・坏	(11.0)	4.2	2.55	茶褐色	良好	緻密・赤色粒子	底部糸切り	
3	土師器・坏	(10.8)	5.0	1.9	茶褐色	良好	密・赤色粒	底部糸切り	
4	土師器・坏	(9.2)		(2.6)	橙褐色	良	キメやや粗い、長石・石英・赤色粒		
5	土師器・坏	(14.6)		(3.1)	淡暗茶褐色	良	密		
6	土師器・坏	(10.8)	6.4	(4.9)	明茶褐色	良	キメやや粗い	底部糸切り後へラ調整	
7	土師器・坏		6.6	(2.3)	灰茶褐色	良好	密	底部糸切り	内面スチ付
8	土師器・坏		(6.8)	(2.1)	暗茶褐色	良	長石・石英	底部糸切り	
9	土師器・坏	(13.8)		(3.8)	外面茶褐色 内面黒色	良	密	内・外面ミガキ	
10	土師器・脚高台坏		(7.4)	(4.9)	茶褐色	良	長石・石英・砂粒	内面放射状暗文	

3号住居跡 (第9・10図、第4表、図版1・4)

本跡はA-2区の中央南寄り、G・H-1・2グリットに位置し、6号住居跡を切っている。遺構を南北方向の調査区によって確認したため、東西側は調査区外に延びていて平面形は判断しがたい。規模は南北4.35m、確認面からの深さ54~57cmを測る。壁はほぼ垂直に立ち上がる。床面は平坦に作られ、中央に貼り床が認められた。床面北寄りで小穴を2ヶ所確認した。P1は径40×50cm、深さ36cm、P2は径65cm、深さ32cmを測る。P1は埋積土に淡褐色土塊・炭化物を含み、柱痕跡が認められた。南壁際の床面上、径115cmの範囲に炭化物が堆積し、川原石が認められた。床面より50cmの厚さの埋積土中からは炭化物、焼土粒、灰色粘質土塊が確認されたことから付近にカマドの存在が推定できる。

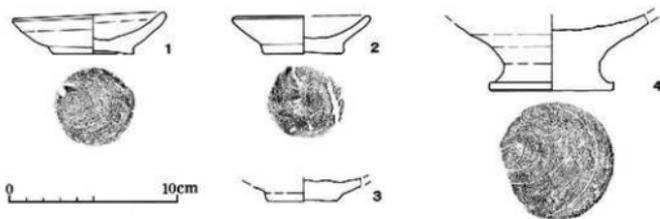
遺物は土師質土器小皿(1)が埋積土上位、土師器小皿(2)、同坏(3)、土師質土器台付坏(4)が床面上より出土した。

時期は出土遺物から、11世紀末~12世紀と考えられる。



- | | |
|---|-----------------------------------|
| 1. 灰色土 (赤土) | 11. 黒色土 (跡まりなし、白色粒若干含む) |
| 2. 黄褐色土 (やや締まる、白色粒多く、黄色粒若干、サビ痕含む) | 12. 暗茶褐色土 (跡まりなし、径2cm黄褐色土塊少量含む) |
| 3. 灰褐色土 (やや締まる、白色粒多く、サビ痕多く含む) | 13. 茶褐色土 (跡まりなし、径3~4cm灰色粘質土塊少量含む) |
| 4. 灰褐色土 (締まって硬い、0.5~1mmの白色粒少量、サビ痕多く含む) | 14. 暗茶褐色土 (跡まりなし、淡黄褐色土層に接) |
| 5. 暗茶褐色土 (締まる、1~2mm白色粒多く、炭化物若干、サビ痕多く含む) | 15. 暗茶褐色土 (跡まりなし、白色粒、炭化物、焼土粒若干含む) |
| 6. 灰褐色粘質土 (跡まりなし、1~2mm白色粒若干、暗茶褐色土層に接) | 16. 茶褐色土 (跡まりなし、白色粒少量、淡黄褐色土塊少量含む) |
| 7. 暗茶褐色土 (跡まりなし、白色粒多く、炭化物若干含む) | 17. 茶褐色土 (跡まりなし、炭化物多く、焼土若干含む) |
| 8. 暗茶褐色土 (跡まりなし、白色粒若干、炭褐色土含む) | 18. 茶褐色土 (跡まりなし、径1cm黄褐色土塊若干含む) |
| 9. 暗茶褐色土 (跡まりなし、白色粒、炭化物若干、黄褐色土塊若干含む) | 19. 炭化物 |
| 10. 暗茶褐色土 (跡まりなし、白色粒少量、1~2cmの黄褐色土塊少量含む) | |

第9図 3号住居跡



第10図 3号住居跡出土遺物

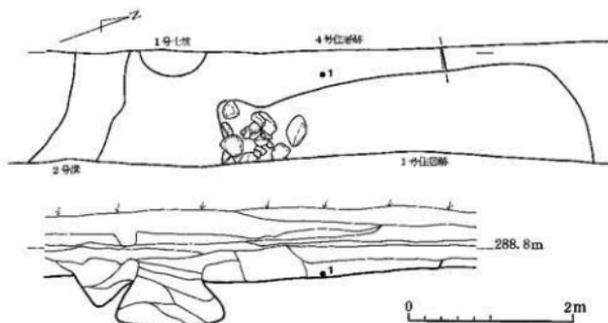
第4表 3号住居跡出土遺物観察表

No.	種別・器種	寸法 (cm)			色調	焼成	胎土	器形・調整の特徴	備考
		口径	底径	器高					
1	土師質土器・小皿	8.9	5.0	2.55	赤褐色	良好	密・金雲母多量	底部糸切り	ロクロ右回転
2	土師器・小皿	(7.6)	4.8	2.3	橙褐色	やや不良	密・白色・赤色粒	底部糸切り後へラ調整	
3	土師器・杯		4.3	(2.4)	茶褐色	良	キメやや粗い、小石(5mm)・赤色粒子		
4	土師質土器・台付杯		7.5	(4.6)	暗茶褐色	良好	密・金雲母多量	底部糸切り	

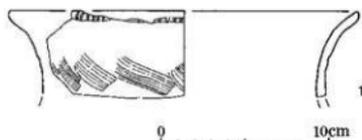
4号住居跡 (第11・12図、第5表、図版4)

本跡はA-2区、E-2グリットに位置し、1号住居跡の西側、調査区外に延びている。壁を調査区西壁セクションで確認はしたものの平面形、規模ともに不明である。床面はやや南に傾斜し、軟弱である。

時期は出土遺物が僅かであるが、周辺の状況から弥生時代後期と判断される。



第11図 4号住居跡



第12図 4号住居跡出土遺物

第5表 4号住居跡出土遺物観察表

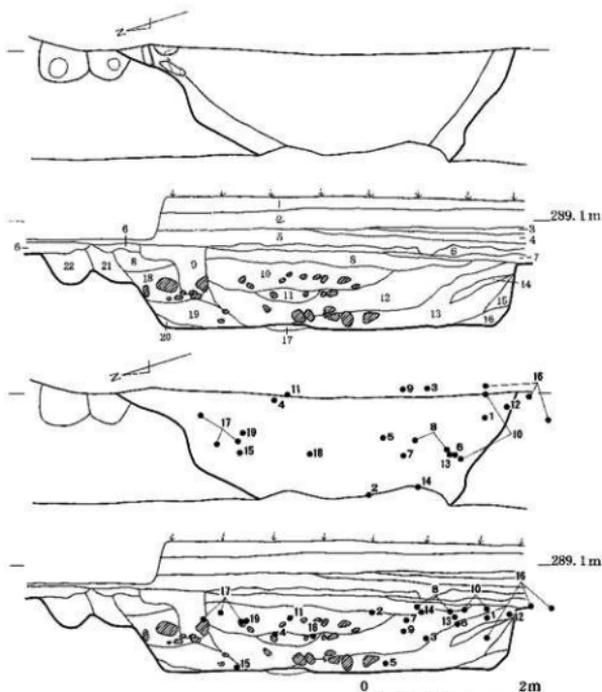
No.	種別・器種	寸法 (cm)			色調	焼成	胎土	器形・調整の特徴	備考
		口径	底径	器高					
1	弥生土器・甕	(20.8)		(5.2)	明茶褐色	良	キメやや粗い	外面口縁部キザミ、体部ハケ目	

5号住居跡 (第13・14図、第6表、図版2・4)

本跡はA-2区、C・D-2グリットに位置している。遺構は北壁と西壁の一部を確認し、西側コーナーが調査区外にあるものと推定される。それ以外は東側調査区外に延びている。平面形は隅丸方形と考えられ、確認面からの深さ74cmである。壁はほぼ垂直に立ち上がる。床面は砂礫層を掘り込み平坦に作られ、カマド前面から中央にかけて貼り床を確認した。柱穴は確認することができなかった。

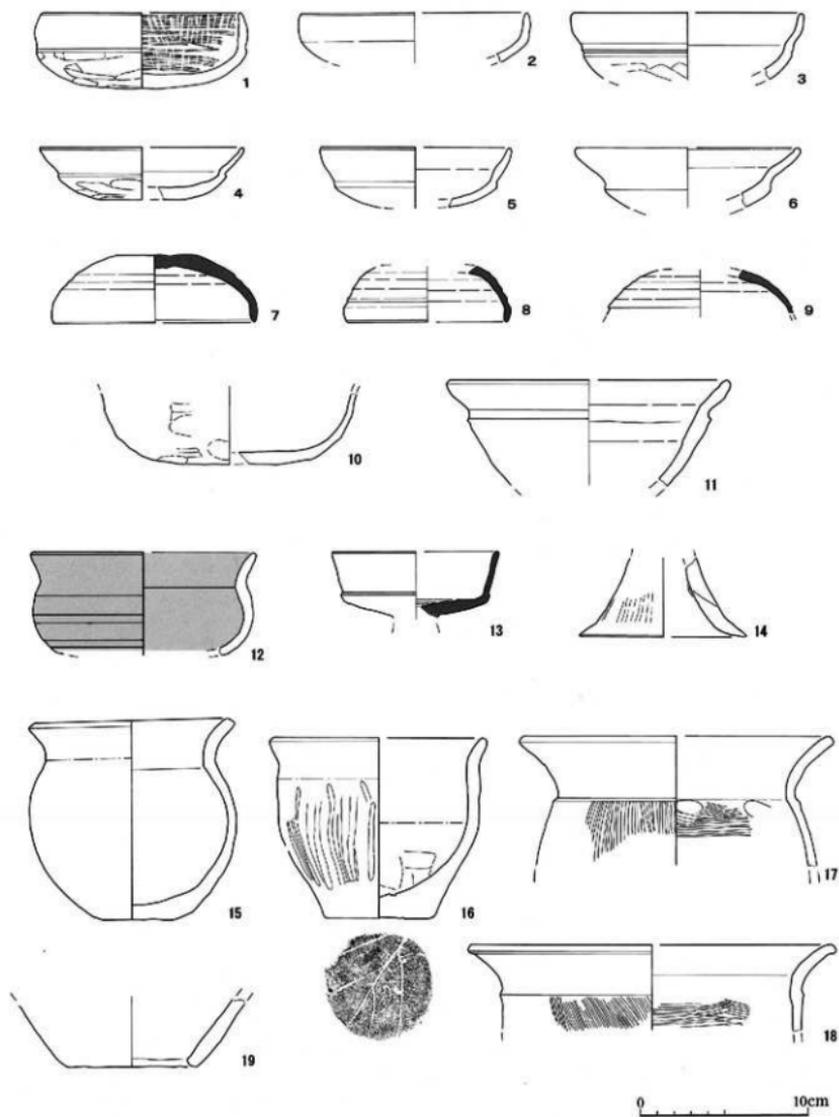
カマドは北壁に設けられ、半分ほどが調査区外にある。川原石を用いた石組みカマドで、大きさは長さ70cmが遺存している。袖石は壁際に礫が貼りついているのが確認された。天井石は2枚が遺存し、部分的に淡褐色上が認められたがこれは構築材の補強と考えられる。住居中央の埋積土中から、径約150cm、高さ70cmの椀面にわたり大形の礫が積み重なるようにして確認され、この礫群の周囲に土器片が集中している。土器片は埋積土の中層から上層にかけて出土し、下層からはほとんど出土しなかった。この礫は住居構築時に砂礫層から出土したものか或いは他の遺構の掘削時に出土したものか、いずれかものを集中的に廃棄したものと考えられる。また、北壁際の床面上から土師器壺(15)の完形品が出土した。

時期は6世紀第3四半期と考えられる。



- | | |
|--|--|
| <p>1. 灰色土(表)、締まりなく、白色粉少量含む</p> <p>2. 黄灰色土(締まる、白色粉若干含む)</p> <p>3. 灰褐色土(締まる、白色粉、炭化物若干含む)</p> <p>4. 灰褐色土(締まる、サビ込みやや劣化、白色粉、炭化物若干含む)</p> <p>5. 暗灰褐色土(やや締まる、白色粉、炭化物若干含む)</p> <p>6. 淡褐色土(締まりなし、暗灰褐色土混じる、サビ若干含む)</p> <p>7. 茶褐色土(締まって硬い、白色粉、炭化物含む)</p> <p>8. 暗茶褐色土(締まりなし、白色粉、炭化物若干含む)</p> <p>9. 灰褐色土(やや締まる、やや劣化、炭化物、深0.5~1cmの淡褐色土塊若干含む)</p> <p>10. 茶褐色土(締まりなし、白色粉、炭化物、淡褐色土、黒色土塊少量含む)</p> <p>11. 茶褐色土(締まりなし、炭化物、淡褐色土塊少量含む)</p> | <p>12. 茶褐色土(締まりなし、炭化物、灰褐色土少量、径1~2cm淡褐色土塊含む)</p> <p>13. 暗茶褐色土(締まりなし、炭化物、焼土粒若干含む)</p> <p>14. 暗茶褐色土(締まりなし、炭化物、淡茶褐色土含む)</p> <p>15. 暗茶褐色土(締まりなし、径1~2cm淡褐色土塊多く含む)</p> <p>16. 暗茶褐色土(締まりなし、劣境含む)</p> <p>17. 茶褐色土(やや締まる、焼り灰)</p> <p>18. 茶褐色土(やや締まる、やや劣い、炭化物、淡褐色土粒少量含む)</p> <p>19. 茶褐色土(やや締まる、炭化物、黒土粒少量含む)</p> <p>20. 茶褐色土(締まる、劣化含む)</p> <p>21. 茶褐色土(締まる、焼土粒少量含む)</p> <p>22. 茶褐色土(やや締まる、白色粉、径1~2.5cm茶褐色土塊少量含む)</p> |
|--|--|

第13図 5号住居跡



第14图 5号住居跡出土遺物

第6表 5号住居跡出土遺物観察表

No.	種別・副種	寸法 (cm)			色調	焼成	胎土	器形・調整の特徴	備考
		口徑	底徑	器高					
1	土師器・坏	11.8	2.8	4.5	外面黒茶色 内面黒色	良	長石・石英	外面ヘラ整形 内面横方向のミガキ	
2	土師器・坏	(13.5)		(2.0)	外面暗茶色 内面赤茶色	良	密	外面口辺部赤彩の痕跡 内面赤彩	
3	土師器・坏	(13.6)		(4.1)	茶褐色	良好	密・赤色粒	外面口辺部横方向のミガキ 体部下半ヘラケズリ	
4	土師器・坏	(12.0)	5.0	3.2	黒色	良好	密・赤色粒	外面ヘラ整形後横方向のミガキ 内面横方向のミガキ	
5	土師器・坏	(11.4)		(3.5)	明茶褐色	良好	密・赤色粒		
6	土師器・坏	(13.4)		(3.6)	暗茶褐色	良好	密	外面口辺部横方向のミガキ	
7	須恵器・蓋	(12.0)	4.8	4.15	灰茶色	良	キメやや粗い・白色粒		
8	須恵器・蓋	(8.4)		(3.4)	灰茶色	良好	緻密		
9	須恵器・蓋			(2.6)	灰黒色	良好	緻密・黒色粒		
10	土師器・埴		(6.0)	(4.3)	黒茶色	良好	密・赤色粒	外面ミガキ・指頭痕	
11	土師器・鉢	(16.6)		(6.4)	茶褐色	良	キメやや粗い・長石・石英		
12	土師器・埴	(13.2)		(6.3)	赤彩	良	密	外面口辺部横方向のミガキ、体部 ヘラケズリ、内面横方向のミガキ	
13	須恵器・高坏	(9.8)		(4.2)	灰白色	良好	緻密		
14	土師器・高坏脚部		(9.8)	(4.8)	外面淡黒茶色 内面黒茶色	良	密	外面ナデ	透孔の切込み が認められる
15	土師器・小型甗	13.6	4.7	12.3	茶褐色	良	キメやや粗い、小石	口辺部横ナデ	
16	土師器・小型甗	(12.5)	6.4	11.0	暗茶褐色	良好	長石・石英・小石	外面縦方向のミガキ 内面体部下半ヘラケズリ 口辺部横ナデ	底部木炭痕
17	土師器・長胴甗	(18.4)		(7.9)	明茶褐色	良	キメやや粗い、小石 (1~2mm)・赤色粒	外面体部縦方向のハケ目 内面体部横方向のハケ目	
18	土師器・長胴甗	(21.6)		(5.3)	明茶褐色	良好	長石・石英・赤色粒	外面斜め方向のハケ目 内面横方向のハケ目	
19	土師器・甗		(7.6)	(4.1)	明茶褐色	良	キメやや粗い、長石・ 石英・赤色粒・小石		

6号住居跡 (第15・16図、第7表、図版5)

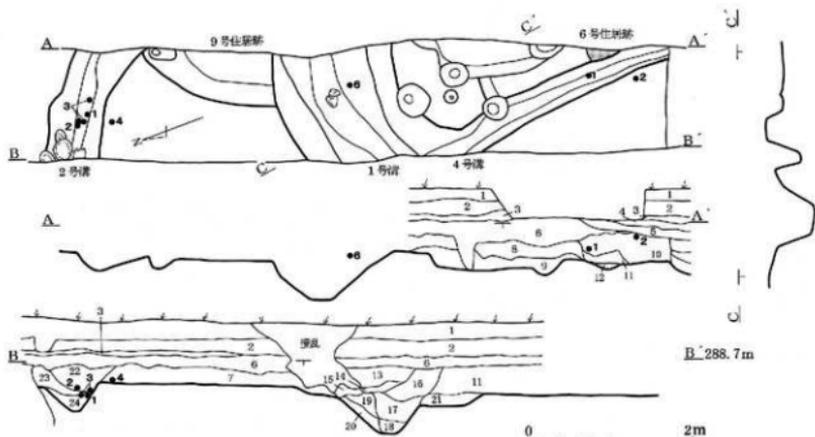
本跡はA-2区の中央、G・F-1・2グリットに位置し、3号住居跡、1号溝に切れ、4号溝を切る。遺構は重複が激しく床面と北壁の一部が確認されただけである。平面形は不明、規模は計測不能である。壁は4号溝と調査区東壁際の掘り込みの間で確認され、外傾して立ち上がり、高さは12cmである。床面は平坦で堅く締まる。4号溝と調査区東壁との間で焼土粒を含んだ浅い掘り込みを検出した。検出した面積が小規模のため、炉と考えられるも、断断はしがたい。柱穴は認めることはできなかった。

時期は出土遺物が僅かであるが、周囲の状況から11世紀後半と判断される。

7・8号住居跡 (第17・18図、第8表、図版2・4)

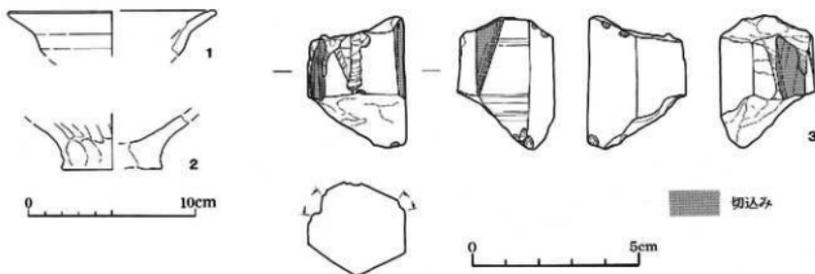
本跡はA-3区の西端、I-2・3グリットに位置し、西側で6号土坑と重複し、東側で3号溝が隣接する。東壁側と北側調査区寄りでは段を確認したことから、2軒の住居跡の重複と推測し、段の上を8号住居跡、段の下を7号住居跡とした。平面形は両方とも不明、規模は全体を確認していないため計測することができない。確認面からの深さは7号住居跡が52cm、8号住居跡が34cmを測る。壁は双方外傾して立ち上がる。床面は平坦に作られ、P1の南で貼り床が認められた。P1の大きさは径58×65cm、深さ53cmを測る。炉・カマドともに調査区内では確認することはできなかった。

時期は7号住居跡が古墳時代後期、8号住居跡は弥生時代と判断される。



1. 灰色土 (黄土)
2. 黄灰色土 (やや締まる, 白色粒多く, 黄色粒若干含む)
3. 暗茶褐色土 (締まって堅い, サビ粒多く含む)
4. 灰褐色土 (締まって堅い, 0.5~1mm白色粒少量, サビ粒多い)
5. 暗茶褐色土 (締まる, 1~2mm白色粒若干, 暗茶褐色土混じる)
6. 暗茶褐色土 (締まりなし, 白色粒少量, 炭化物若干含む)
7. 暗茶褐色土 (締まりなし, 白色粒少量含む)
8. 暗茶褐色土 (締まりなし, 白色粒若干含む)
9. 暗茶褐色土 (締まりなし, 白色粒若干, 黒色土少量含む)
10. 茶褐色土 (締まりなし, 粒子若干含む)
11. 暗茶褐色土
12. 暗茶褐色土 (焼土・炭化物含む)
13. 暗茶褐色土 (締まりなし, 白色粒若干, 赤褐色のサビ少量含む)
14. 暗茶褐色土 (締まりなし, 暗茶褐色土少量含む)
15. 黒色土 (締まりなし, 白色粒微量含む)
16. 茶褐色土 (締まりなし, 灰褐色土粒・白色粒若干含む)
17. 茶褐色土 (締まりなし, 白色粒・黒色土粒少量含む)
18. 暗茶褐色土 (締まりなし, 径2~3cm黄褐色土粒少量含む)
19. 黒色土 (締まりなし, 白色粒・炭化物微量含む)
20. 黒色土 (締まりなし, 暗茶褐色土少量含む)
21. 茶褐色土 (締まりなし, 白色粒若干, 暗茶褐色土, 黒色土粒少量含む)
22. 暗茶褐色土 (締まりなし, 白色粒多く, 炭化物若干含む)
23. 黒色土 (締まりなし, 白色粒微量含む)
24. 黒色土 (締まりなし, 径3~4mm黄褐色土塊多く含む)

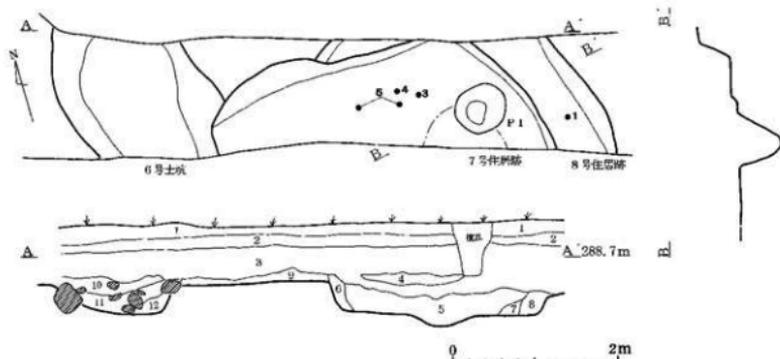
第15図 6・9号住居跡、1・2・4号溝



第16図 6号住居跡出土遺物

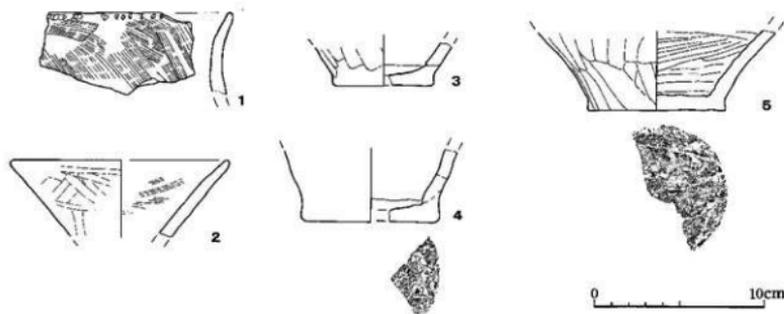
第7表 6号住居跡出土遺物観察表

No.	種別・器種	寸法 (cm)			色調	焼成	胎土	器形・調整の特徴	備考
		口径	底径	器高					
1	土師質土器・坏	(12.0)		(2.75)	暗茶褐色	良	密・金雲母多量		
2	土師器・壺		(6.0)	(2.8)	茶褐色	良	キメやや粗い, 白・赤粒子	外面斜め方向のハケ目, 指頭痕	
No.	種別・器種	最大長	最大幅	最大厚	重さ	石質	特徴		備考
3	原石	3.9	2.5	2.7	38.1g	水晶	工作のための切込みが二箇所認められる		



- | | |
|---|--|
| <p>1. 灰土(灰土)
 2. 黄褐色土
 3. 灰褐色土(やや粘まる、口色較多く含む)
 4. 灰褐色土(3層にサビ短が多く含む)
 5. 茶褐色土(1~2mm層多く、灰褐色土、灰土層(含む))
 6. 茶褐色土(白色粒少量、黄褐色土塊少量含む)</p> | <p>7. 褐色土(粘土質中、黄褐色土塊含む)
 8. 褐色土(灰褐色土塊多く含む)
 9. 暗茶褐色土(1~2mm層が多量に含む)
 10. 暗茶褐色土(2~3mm層多く、2~3cm黑色土塊若干含む)
 11. 暗茶褐色土(2~3mm層少量、炭化物若干含む)
 12. 暗茶褐色土(褐色土含む)</p> |
|---|--|

第17図 7・8号住居跡、6号土坑



第18図 7・8号住居跡出土遺物

第8表 7・8号住居跡出土遺物観察表

No.	種別・器種	寸法 (cm)			色調	焼成	胎土	器形・調整の特徴	備考
		口径	底径	器高					
1	弥生土器・甕			(5.0)	外面暗茶褐色 内面茶褐色	良	キメやや粗い、長石・石英・金雲母	外面口縁部キザミ、斜め方向のハケ目	
2	土師器・埴	(12.7)		(4.7)	暗茶褐色	良	キメやや粗く、小石(1mm)	外面ナデ 内面横方向にハケ目	
3	土師器・小型壺		(6.0)	(2.4)	暗茶褐色	良好	長石・石英・小石(2mm)	外面へら整形	
4	土師器・甕		(8.0)	(4.3)	暗茶褐色	良	長石・石英・小石(3mm)		
5	土師器・甕		(8.0)	(4.8)	暗茶褐色	良		外面縦方向のへらナデ 内面横方向のへら整形	底部木炭痕

9号住居跡 (第15・19図、第9表)

本跡はA-2区、F-2グリットに位置し、1号溝を切る。平面形は不明、規模は計測できない。確認面からの深さ16cmで、壁は外傾して立ち上がる。床面は平坦で、1号溝の北側の床面から1号溝の埋積土にかけて貼り床が認められた。炉・カマドおよび柱穴は確認できなかった。

時期は図示した遺物から5世紀前半と考えられる。



第19図 9号住居跡出土遺物

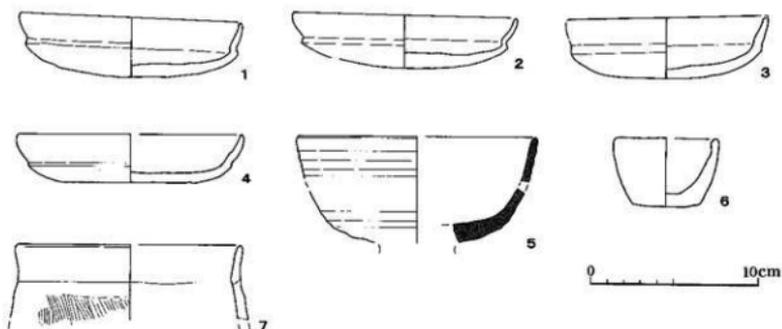
第9表 9号住居跡出土遺物観察表

No.	種類・器種	寸法 (cm)		色調	焼成	胎土	器形・調整の特徴	備考
		口径	底径 器高					
1	土師器・壺		(3.6)	茶褐色	良	長石・石英・赤色粒・小石	外面縦方向のハケ目 内面横方向のハケ目	

10号住居跡 (第6・20図、第10表、図版4)

本跡はA-1区、A-2グリットに位置し、2号住居跡と道路状遺構に切られている。平面形は兩丸方形か。規模は東西4.5mを確認する。確認面からの深さ33cmで、壁はやや外傾して立ち上がる。床面は黄色土と黒色土を混ぜた茶褐色土を厚さ2cmほどに平らに均して作られていた。炉・カマドおよび柱穴は確認できなかった。

時期は床面上から出土した土師器坏 (1~4) から6世紀第3四半期と判断される。



第20図 10号住居跡出土遺物

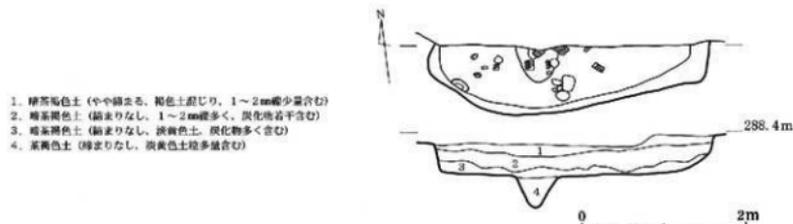
第10表 10号住居跡出土遺物観察表

No.	種別・器種	寸法 (cm)			色調	焼成	胎土	器形・調整の特徴	備考
		口径	底径	器高					
1	土師器・坏	13.1	4.0	3.9	暗茶褐色	良	密・赤色粒子多い	外面口辺部横方向のミガキ 内面横方向のミガキ	
2	土師器・坏	(14.2)	3.0	3.1	黒茶褐色	良	密	外面口辺部横方向のミガキ 内面横方向のミガキ	
3	土師器・坏	(11.8)	4.0	(3.7)	暗茶褐色	良	密・赤色粒子多い		
4	土師器・坏	(13.2)	(8.0)	2.95	暗茶褐色	良好	密	外面口辺部横方向のミガキ 内面横方向のミガキ	
5	須恵器・高杯	(14.0)		(6.5)	黒灰色	良	キメやや粗い、1mm 程の礫含む		
6	てづくね土器	(6.0)	(4.0)	4.2	茶褐色	良	白・赤色粒		
7	土師器・小型甕	(13.2)		(4.5)	暗茶褐色	良	白色粒子	外面口辺部横ナデ、縦方 向のハケ目	

11号住居跡 (第21・22図、第11表、図版2・4)

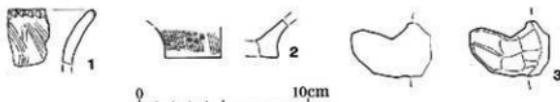
本跡はA-3区、I-4・5グリットに位置している。平面形は隅丸方形と推定され、規模は東西3.35mを確認する。確認面からの深さ40cmで、壁はやや外傾して立ち上がる。床面は平坦、貼り床などの硬化面は認められなかった。床面中央に小穴が1ヶ所認められた。大きさは径53cm、深さ44cmを測る。炉およびカマドは確認することはできなかった。床面上に炭化物を含む層が10cmほど堆積し、若干の焼土と炭化材が確認された。

時期は遺物が稀少なため判断し難いが、古墳時代と考えられる。



1. 暗茶褐色土 (やや錆びる、褐色土混じり、1~2mm礫少量含む)
2. 暗茶褐色土 (錆まりなし、1~2mm礫多く、炭化物若干含む)
3. 暗茶褐色土 (錆まりなし、淡黄色土、炭化物多く含む)
4. 淡黄色土 (錆まりなし、淡黄色土礫多量含む)

第21図 11号住居跡



第22図 11号住居跡出土遺物

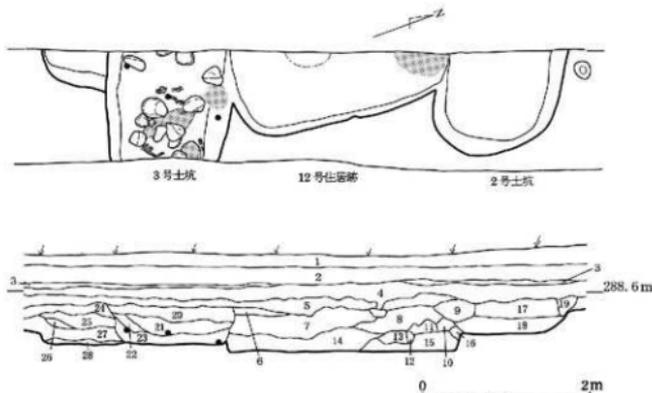
第11表 11号住居跡出土遺物観察表

No.	種別・器種	寸法 (cm)			色調	焼成	胎土	器形・調整の特徴	備考
		口径	底径	器高					
1	土師器・甕				暗茶褐色	良	赤・白色粒、小石多い	外面斜め方向のハケ目 内面横方向のハケ目	
2	土師器・壺		(7.8)	(2.4)	茶褐色	良	長石・石英・赤色粒	外面縦方向のハケ目 内面横方向のハケ目	
3	土師器・甕把手			(3.3)	茶褐色	良	キメやや粗い、赤色粒		

12号住居跡 (第23・24図、第12表、図版2)

本跡は調査区A-4区、F-10グリットに位置し、2号土坑、3号土坑に切られている。遺構は約3分の2が調査区外にあり、平面形は隅丸方形と推定され、規模は南北2.8mを確認した。確認面からの深さ46cmで、壁はほぼ垂直に立ち上がる。床面は平坦、中央に一部貼り床が認められる。柱穴は認められなかった。北東隅の床面上で若干焼土を確認したことから、この付近にカマドがあったものと想定される。

時期は11世紀後半と判断される。



1. 灰色土
2. 黄灰色土 (締まる、白色粘着土、灰色がやや強い)
3. 暗灰褐色土 (締まって強い、白色粘着・炭化物若干含む)
4. 暗灰褐色土 (締まって強い、白色粘着・炭化物・黄褐色粘着土、サビ痕含む)
5. 暗灰褐色土 (締まる、白色粘着・炭化物若干、サビの痕を含み一部強い)
6. 茶褐色土 (締まり無し、黄色土塊若干含む)
7. 茶褐色土 (締まり無し、1~2cm黄色土塊多量、黒色土塊・径1~2mm雜多量含む)
8. 茶褐色土 (締まり無し、黄色土塊少なく、黒色土多量含む)
9. 茶褐色土 (締まり無し、黄色土多量、灰化粘着土)
10. 茶褐色土 (締まり無し、やや赤化、白色粘着少量、ローム塊若干含む)
11. 茶褐色土 (締まり無し、径2cm砂質土塊、黒色土塊多量含む)
12. 茶褐色土 (締まり無し、焼土塊若干含む)
13. 暗茶褐色土 (締まり無し、黄褐色土塊若干含む)
14. 茶褐色土 (締まり無し、0.5~1cm黄色土塊・1~2cm灰色土塊多量含む)
15. 茶褐色土 (締まり無し、粘り少なく、炭化物少量、径3cm塊土塊含む)
16. 茶褐色土 (締まり無し、黄色土多量含む)
17. 暗茶褐色土 (締まり無し、粘り少く、3mm或黄褐色土塊少量、炭化物多量含む)
18. 暗茶褐色土 (締まり無し、黄色土多量、炭化物少量含む)
19. 暗茶褐色土 (締まる、黄褐色土・粘り若干含む)
20. 暗茶褐色土 (やや締まる、粘り・0.1~2mm少量、炭化物若干含む)
21. 暗茶褐色土 (やや締まる、粘り若干、炭化物・径1cm或黄色土塊少量含む)
22. 暗茶褐色土 (締まり無し、粘り少く含む)
23. 暗茶褐色土 (締まり無し、炭化物やや多い、黄色土混じり)
24. 灰色土 (やや締まる、白色粘着少量)
25. 茶褐色土 (締まり無し、径2~3cm黄褐色土塊多量、白色粘着・炭化物若干含む)
26. 茶褐色土 (締まり無し)
27. 暗茶褐色土 (締まり無し、白色粘着・炭化物若干含む)
28. 暗茶褐色土 (灰色土含む)

第23図 12号住居跡、2・3号土坑



第24図 12号住居跡出土遺物

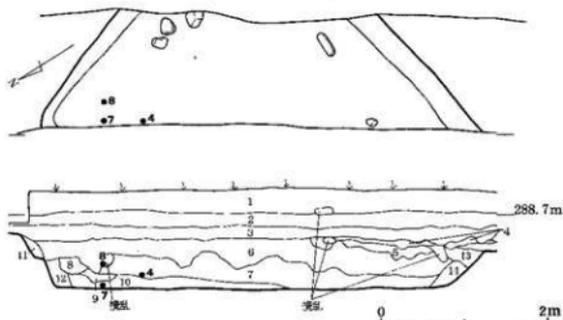
第12表 12号住居跡出土遺物観察表

No.	種別・器種	寸法 (cm)			色調	焼成	胎土	器形・調整の特徴	備考
		口径	底径	器高					
1	土師質土器・杯	(13.8)		(3.5)	暗茶褐色	良好	密・雲母多い		
2	土師質土器・小皿	(10.0)		(1.7)	明茶褐色	良好	密・雲母多量		

13号住居跡 (第25・26図、第13表、図版2・4)

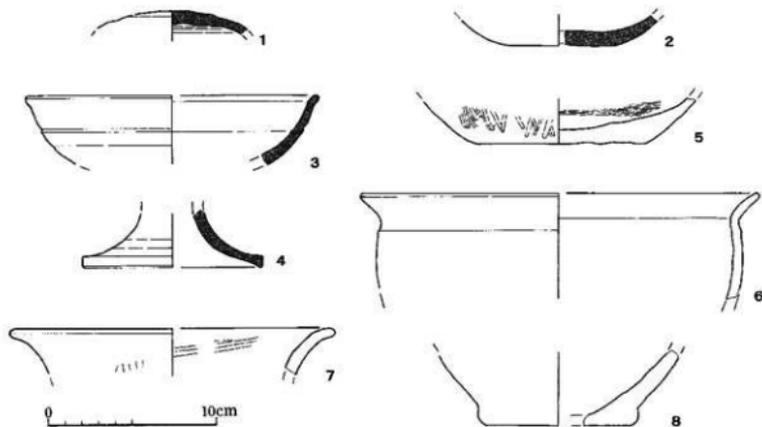
本跡はA-4区、G・H-9・10グリッドに位置している。平面形は隅丸方形と推定され、規模は不明。確認面からの深さ41cmで、壁はやや外傾する。床面は平坦、調査区西壁寄りに貼り床が認められた。柱穴は認められなかった。カマドは埋積土下位に焼土が認められたことから北東隅に設けられているものと推察される。

時期は出土遺物と住居跡の状況から6世紀後半～7世紀と考えられる。



- | | |
|-------------------------------------|--|
| 1. 黄褐色土 (締まる) | 7. 暗茶褐色土 (締まりなし、白色粉体層より少なく、3~4mm縞多く含む) |
| 2. 灰褐色土 (締まる、1~2mm白色粒、炭化物多く含む) | 8. 黒色土 (締まりなし、1~2mm白色粒若干含む) |
| 3. 暗灰褐色土 (締まる、白色粒多く、炭化物若干、サビ痕多く含む) | 9. 黒色土 (締まりなし、2~3cm焼土層含む) |
| 4. 淡灰褐色砂質土 (サビ痕若干含む) | 10. 暗茶褐色土 (締まりなし、白色粘着土、灰色粘土若干含む) |
| 5. 暗茶褐色土 (締まって堅い、白色粒若干含む) | 11. 黒色土 (締まりなし) |
| 6. 暗茶褐色土 (締まりなし、2~3mm白色粒多く、炭化物若干含む) | 12. 黒色土 (締まりなし、3~4cm灰褐色土塊多く含む) |

第25図 13号住居跡



第26図 13号住居跡出土遺物

第13表 13号住居跡出土遺物観察表

No.	種別・器種	寸法 (cm)			色調	焼成	胎土	器形・調整の特徴	備考
		口径	底径	器高					
1	須恵器・蓋			(1.4)	灰茶色	良	密・1mm小石		外面白色障灰
2	土師器・坏		(6.0)	(1.8)	黒茶色	良好	密	内面ミガキ	
3	須恵器・高杯	(17.2)		(4.2)	灰色	良好	密・白色粒		4と同一個体か
4	須恵器・高杯		(10.6)	(3.3)	灰茶色	良好	密・白色粒		3と同一個体か
5	土師器・壺		(10.0)	(2.7)	明茶褐色	良	長石・石英・金雲母・赤色粒	外面縦方向のハケ目 内面横方向のハケ目	
6	土師器・鉢	(23.5)		(6.4)	暗茶褐色	良	小石 (1mm) 多い	外面ハケ目後ナデ	
7	土師器・甕	(19.0)		(2.8)	暗茶褐色	良	赤色粒子・小石 (1mm)	外面縦ハケ目 内面横ハケ目	
8	土師器・甕		(8.6)	(4.4)	暗茶褐色	良	長石・石英・赤色粒		

14号住居跡 (第27・28図、第14表、図版2)

本跡はA-4区、I-8グリットに位置し、7号土坑に切られ、15号住居跡を切っている。平面、規模ともに不明である。壁はほぼ垂直に立ち上がり、28cmを測る。床面は平坦で中央に貼り床が認められた。柱穴は確認することはできなかった。カマドは認めることはできなかった。

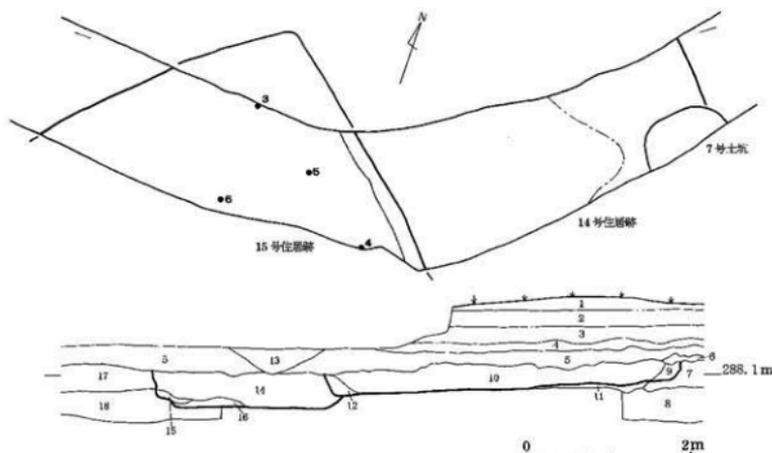
時期は遺物と15号住居跡を切っていることを考え合わせれば、11世紀末～12世紀と考えられる。

15号住居跡 (第27・29図、第15表、図版2・5)

本跡はA-3区、I-8グリットに位置し、14号住居跡に切られる。平面形は隅丸方形と推定され、規模は計測不能。壁はほぼ垂直に立ち上がり、45cmを確認した。床面は平坦。柱穴は確認できなかった。カマドは認めることはできなかった。

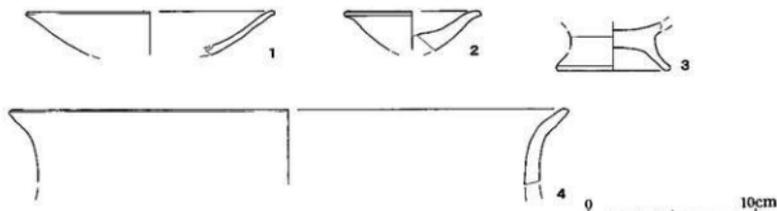
遺物は土師質土器小皿 (3)、須恵器高台付坏 (5) が床面上から出土している。

時期は土師質土器小皿の出土から11世紀後半と考えられる。



- | | | |
|----------------------------------|------------------------------|----------------------------------|
| 1. 灰土 (灰土) | 7. 藍色土 (やや締まる、2~3mm塵少量含む) | 13. 灰褐色土 (締まりなし、サジ散り含む) |
| 2. 黄褐色土 | 8. 灰色砂質土 (やや締まる、2~6mm塵少量含む) | 14. 赤褐色土 (締まりなし、2~4mm塵少量、サジ散り含む) |
| 3. 灰褐色土 (やや締まる、1~2mm塵少量、炭化物下穴含む) | 9. 淡褐色砂質土 (締まりなし、塵少量含む) | 15. 灰褐色土 (炭化物多量、サジ散り含む) |
| 4. 灰褐色土 (締まって堅い、1~2mm塵、サジ散り含む) | 10. 暗茶褐色土 (締まりなし、2~3mm塵少量含む) | 16. 赤褐色土 (炭化物多量、塵少量含む) |
| 5. 灰褐色土 (締まる、1~2mm塵、炭化物下穴含む) | 11. 黒色土 (粘り強い) | 17. 赤褐色土 |
| 6. 灰褐色砂質土 (灰褐色土混じり) | 12. 暗茶褐色土 (褐色土、炭化物含む) | 18. 灰褐色土 (灰色土塊多く含む) |

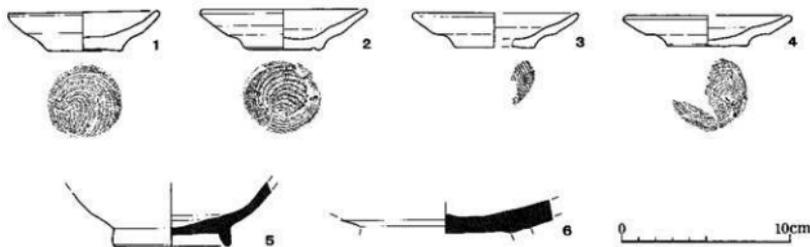
第27図 14・15号住居跡



第28図 14号住居跡出土遺物

第14表 14号住居跡出土遺物観察表

No.	種別・器種	寸法 (cm)			色調	焼成	胎土	器形・調整の特徴	備考
		口径	底径	器高					
1	上師器・皿	(14.6)		(3.2)	橙褐色	やや不良	密	やや玉縁状口縁	
2	上師器・小杯	(7.7)		(2.3)	茶褐色	良	密・キメやや粗い 赤・白色粒子		
3	土師器・脚高台杯		(6.5)	(2.9)	茶褐色	良好	密・赤色粒子		
4	土師器・甕	(32.8)		(4.6)	暗茶褐色	良	キメ粗い、白色粒子 ・金雲母		



第29図 15号住居跡出土遺物

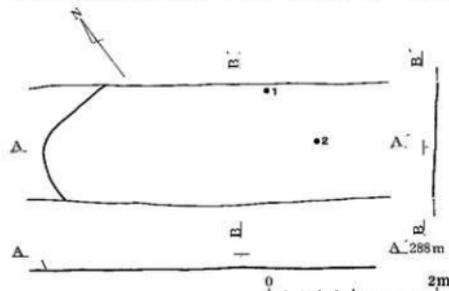
第15表 15号住居跡出土遺物観察表

No.	種別・器種	寸法 (cm)			色調	焼成	胎土	器形・調整の特徴	備考
		口径	底径	器高					
1	上師質土器・小皿	8.8	4.65	2.3	赤褐色	良好	密・金雲母多い	底部糸切り	
2	上師質土器・小皿	9.7	4.8	2.5	暗茶褐色	良好	キメやや粗い、金雲母多い	底部糸切り	
3	上師質土器・小皿	(9.6)	(4.8)	2.1	暗茶褐色	良好	金雲母多い	底部糸切り	
4	上師質土器・小皿	(9.7)	(4.8)	1.85	赤褐色	良好	キメやや粗い、金雲母多い	底部糸切り	
5	須恵器・高台付杯		(6.6)	(3.8)	灰白色	良好	密・白色粒		内面よく削られている
6	須恵器・台付甕或は高盤			(1.9)	灰白色	良好	密・白色粒		

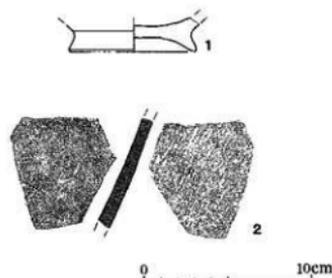
16号住居跡 (第30・31図、第16表)

本跡はA-3区、I-7グリットに位置する。床面のみを確認したが、壁の立ち上がりをつかえることはできなかった。そのため、平面形、規模ともに不明である。床面は堅く締まっていた。柱穴は確認できなかった。炉・カマドは認めることはできなかった。

時期は土師質土器脚高台環 (1) が出土していることから、11世紀前半と考えられる。



第30図 16号住居跡



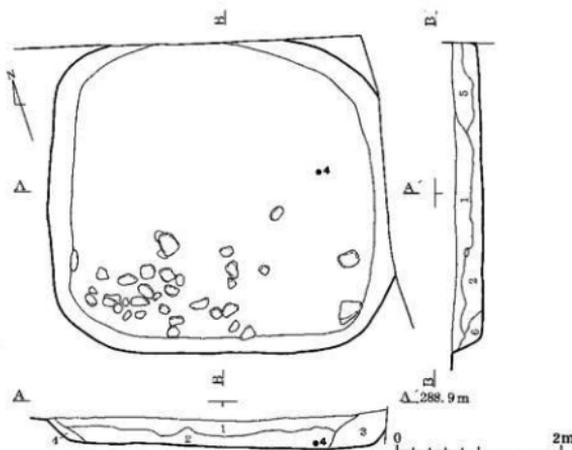
第31図 16号住居跡出土遺物

第16表 16号住居跡出土遺物観察表

No.	種別・器種	寸法 (cm)			色調	焼成	胎土	器形・調整の特徴	備考
		口径	底径	器高					
1	土師質土器・脚高台環		(7.4)	(2.1)	暗茶褐色	良好	密・金雲母多量		
2	須恵器・甕				灰白色	良好	密・白色粒・発砲した黒色粒	外面平行印き 内面ナデ	外面淡緑色の灰釉

17号住居跡 (第32・33図、第17表、図版2)

本跡はC区、A・B-11・12グリットに位置している。平面形は隅丸方形、規模は東西4.3m、南北4mを測る。確認面からの深さ27cmで、壁は外傾して立ち上がる。床面はほぼ平坦、中央より西側が硬化していた。炉・カマ

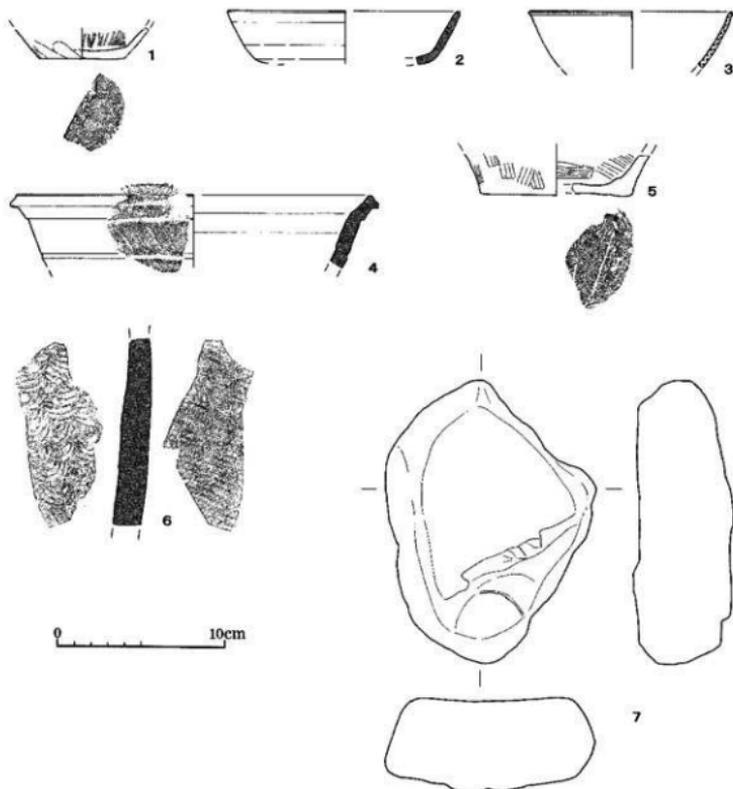


第32図 17号住居跡

1. 暗茶褐色土 (跡残りなし、黄土上粒多く含む)
2. 暗茶褐色土 (跡残りなし、灰色土粒多く、0-5cm級黄土色土塊多く、黒色土質含む)
3. 暗茶褐色土 (跡残りなし、灰色粒多量、3cm級黄土色土塊、炭化物若干含む)
4. 暗茶褐色土 (跡残りなし、やや粗さい、0.5-1cm級黄土色土塊多く含む)
5. 暗茶褐色土 (跡残りなし、黄土上粒多く、0.5-1cm級黄土色土塊、炭化物少量含む)

トおよび柱穴は確認できなかった。遺物は破片が多く出土したが、完成品は認められなかった。

時期は土師器坏(1)、甕(5)から9世紀前半と考えられる。



第17表 17号住居跡出土遺物観察表

第33図 17号住居跡出土遺物

No.	種別・器種	寸法 (cm)			色調	焼成	胎土	器形・調整の特徴	備考
		口径	底径	器高					
1	土師器・坏		(5.0)	(1.8)	茶褐色	良	緻密	外面ヘラケズリ、底部糸切り、内面放射状暗文	
2	須恵器・坏	(13.6)		(3.2)	灰茶色	良	密・発砲した黒色粒		
3	灰釉陶器・坏	(11.8)		(3.5)			密	内外面に淡緑色の釉が施される	
4	須恵器・甕	(20.8)		(4.4)	黒茶色	良好	密・白色粒(6と同種)	外面波状文	
5	土師器・甕		(9.0)	(2.5)	暗茶褐色	良	長石・石英・金雲母・赤色粒・小石	外面縦方向のハケ目、内面横方向のハケ目	
6	須恵器・甕				黒灰茶色	良好	密・白色粒(4と同種)	外面平行印き 内面同心円当て具痕	
No.	種別	最大長	最大幅	最大厚	重さ	石質	特徴	備考	
7	台石	17.2	12.5	5.8	1.76kg	安山岩	図の上面がよく磨れている		

2. 土坑

1号土坑 (第34図)

本跡はA-2区、E-2グリットに位置し、4号住居跡、2号溝を切っている。平面形は円形、規模は上面82cm、底面135cm、深さ83cmを測る。壁は袋状をし、上面がやや開く。底面は平坦。埋積上は暗褐色土で埋められていた。

図示し得る出土遺物は無い。

時期は2号溝(8世紀前半)を切り、埋積上の状況から11世紀末~12世紀としておきたい。

2号土坑 (第23・24図、図版2)

本跡はA-4区、F-10・11グリットに位置し、12号住居跡を切っている。遺構は一部調査区外に延びているが平面形は隅丸方形と推定される。規模は上面145cm、底面117cm、深さ53cmを測る。壁は外傾して立ち上がり、底面は平坦。

図示し得る出土遺物は無い。

時期は12号住居跡を切っていることから、11世紀後半以降としておきたい。

3号土坑 (第23・34・35図、第18表、図版2・3・5)

本跡はA-4区、F・G-10グリットに位置し、12号住居跡を切っている。平面形は隅丸方形か、規模は上面160cm、底面130cm、深さ33cmを測る。壁はほぼ垂直に立ち上がり、底面は平坦。底面付近に粘土と多量の炭化物が堆積し炭化材が認められた。また、径20cmほどの川原石が多量に認められ、それに混じって土師質土器小皿(1・2)が出土した。

時期は土師質土器小皿の年代から11世紀後半と推定される。

4号土坑 (第34・35図、第19表)

本跡はA-2区、H-1グリットに位置し、北に5号土坑が隣接している。平面形は円形、規模は上面70×87cm、底面25×37cm、深さ46cmを測る。遺構は礫層を掘り込み、壁は外傾して立ち上がる。底面は平坦。

時期は古墳時代の土師器坏が出土しているが、流れ込みの可能性も捨て切れず判断し得ない。

5号土坑 (第34・35図、第20表、図版3・5)

本跡はA-2区、H-1グリットに位置し、北に3号住居跡、南に4号土坑が隣接している。平面形は隅丸方形と推定され、規模は上面200cm、底面150cm、深さ50cmを測る。壁はやや外傾して立ち上がる。底面は平坦。

遺物は南壁際から底面にかけて出土した。

時期は土師質土器小皿(5・6)の形状から11世紀前半と判断する。

6号土坑 (第17・34図)

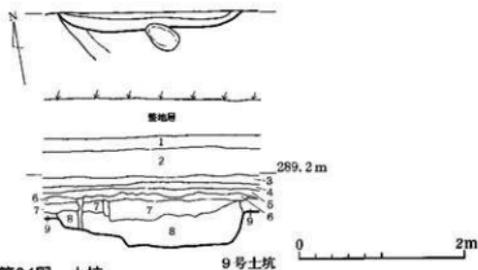
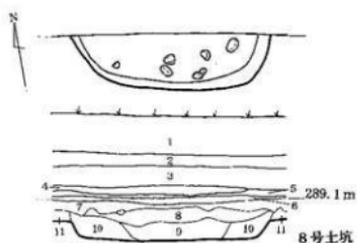
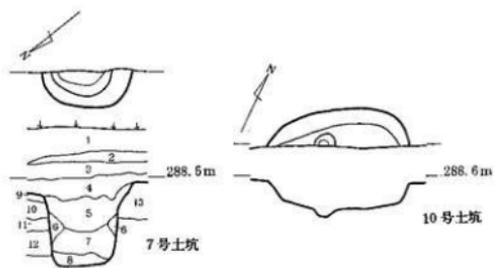
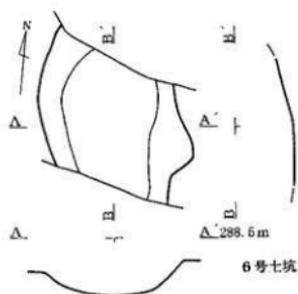
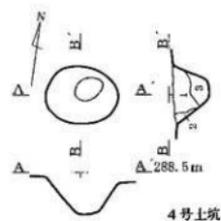
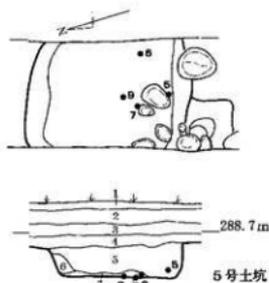
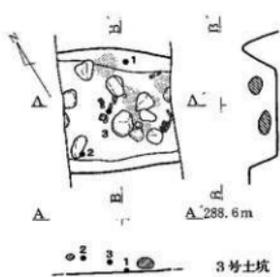
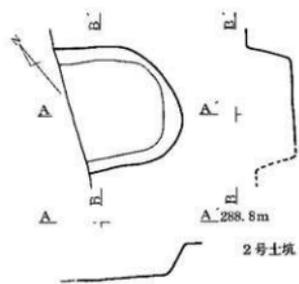
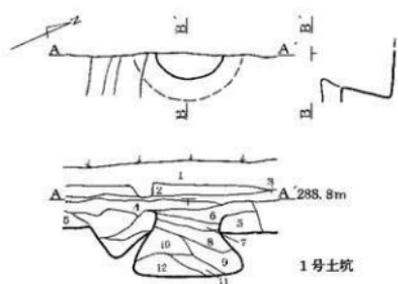
本跡はA-3区、I-2グリットに位置し、東側に7号住居跡と重複する。また、西側の礫層の礫が埋積土中に流れ込んでいる。平面形は楕円形と推定され、規模は長軸が調査区外のため計測することができない。短軸の上面は166cm、底面98cm、深さ43cmを測る。壁は外傾して立ち上がり、底面はややすり鉢状を呈する。

実測し得る出土遺物は無い。

時期は古墳時代と考えられる。

7号土坑 (第34図)

本跡はA-4区、I-9グリットに位置し、14号住居跡を切り、調査区外に延びている。平面形は隅丸方形、



第34图 土坑

規模は上面110cm、底面53cm、深さ104cmを測る。壁はほぼ垂直に立ち上がり、底面は平坦。

図示し得る出土遺物は無い。

時期は14号住居跡を切っていることから、11世紀末～12世紀と推察される。

8号土坑 (第34・35図、第21表)

本跡はC区、A-10・11グリットに位置している。大半が調査区外に延びているため平面形は不明、規模は上面245cm、底面218cm、深さ24cmを測る。壁は外傾して立ち上がり、底面は平坦。埋積上に黄褐色土が含まれていることから、人為的な埋め戻しと推測される。

時期は出土遺物から11世紀後半と判断される。

9号土坑 (第34図)

本跡はC区、A-9グリットに位置し、調査区壁際で確認したため、上面を確認し得ただけである。平面形は不明、規模は計測することは出来なかった。

図示し得る出土遺物は無い。

10号土坑 (第34図)

本跡はA-5区、B-12グリットに位置し、調査区外に延びている。平面形は楕円形か。規模は上面170cmを確認し、深さ34cmである。壁は外傾して立ち上がり、底面はやや中央に傾斜し、中央に小穴が認められる。大きさは径25cm、深さ7cmを測る。

図示し得る出土遺物は無い。

1号土坑

1. 灰土 (流土)
2. 黄灰色土
3. 暗灰褐色土 (締まって堅い、サビ痕多く含む)
4. 灰褐色土 (締まりなし)、白色粒多く、炭化物若干含む
5. 暗灰褐色土 (締まりなし)、白色粒少量含む
6. 灰褐色土 (締まりなし)、径2～3mm炭褐色土塊少量、炭化物若干含む
7. 灰褐色土 (締まりなし)、径1～2cm炭褐色土塊少量、炭化物若干含む
8. 灰褐色土 (締まりなし)、径0.5～1cm炭褐色土塊若干含む
9. 灰褐色土 (締まりなし)、径0.5～4cm炭褐色土塊多く含む
10. 灰褐色土 (締まりなし)、径0.5～1cm炭褐色土塊多く、炭化物若干含む
11. 灰褐色土 (締まりなし)
12. 灰褐色土 (締まりなし)、2～3cm炭褐色土塊少量含む

4号土坑

1. 黒色土 (締まりなし、白色粒若干含む)
2. 黒色土 (締まりなし、炭褐色土塊含む)
3. 黒色土 (締まりなし、炭褐色土塊含む)

5号土坑

1. 灰土 (流土)
2. 黄灰色土 (やや締まる、白色粒多く、炭化物若干、サビ痕含む)
3. 暗灰褐色土 (やや締まる、白色粒多く、サビ痕多く含む)
4. 暗灰褐色土 (締まりなし、炭褐色土塊少量含む)
5. 茶褐色土 (締まりなし)、径2～3mm炭褐色土塊含む
6. 茶褐色土 (締まりなし)、炭褐色土塊少量含む
7. 茶褐色土 (締まりなし)、炭褐色土塊少量含む

7号土坑

1. 灰土 (流土)
2. 黄灰色土 (やや締まる、白色粒、1～2mm炭、炭化物若干含む)
3. 暗灰褐色土 (やや締まる、1～2mm炭、炭化物若干含む)
4. 暗灰褐色土 (やや締まる、1～2mm炭、炭化物若干含む)
5. 暗灰褐色土 (締まりなし、2～3mm炭多く、炭化物若干含む)

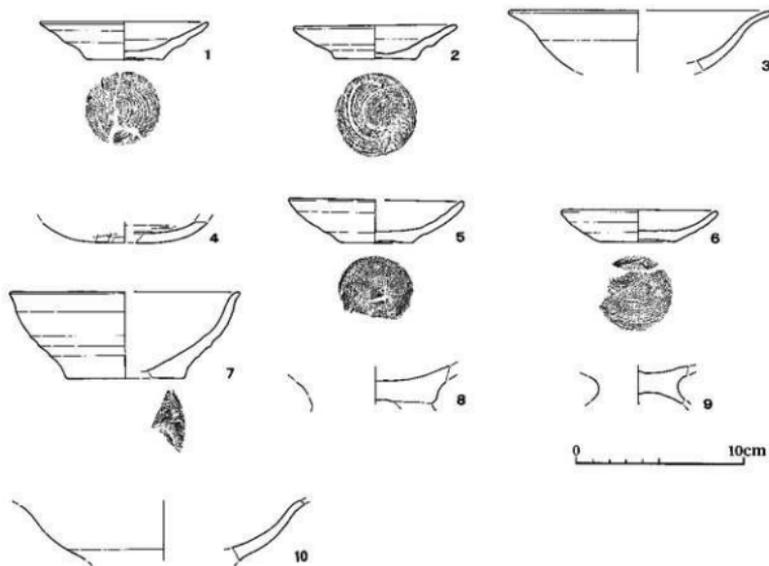
6. 暗灰褐色土 (締まりなし)、2～3mm炭若干、4～5cm炭褐色土塊含む
7. 黄褐色土 (締まりなし)、2～3mm炭若干、径5mm炭土塊、炭化物若干含む
8. 暗灰褐色土 (締まりなし)、2～3mm炭、炭化物少量含む
9. 黒色土 (サビ多く、暗く締まる、2～3mm炭少量含む)
10. 黒色土 (締まる、1～2mm白色粒、黒多く含む)
11. 灰土 (締まる、1～2mm炭少量含む、炭色土塊含む)
12. 灰土 (締まって堅い、1～2mm炭多く含む)
13. 暗灰褐色土 (締まりなし)

8号土坑

1. 灰土
2. 灰土 (締まって堅い、白色粒若干含む)
3. 黄灰色土 (締まって堅い、白色粒多く含む)
4. 灰褐色土 (締まる、白色粒若干、サビ痕含む)
5. 灰褐色土 (やや締まる、白色粒少量含む)
6. 暗灰褐色土 (やや締まる、白色粒、炭褐色土塊、炭化物若干含む、サビ痕やや含む)
7. 暗灰褐色土 (白色粒、炭化物少量含む)
8. 黄褐色土 (締まりなし)
9. 茶褐色土 (締まりなし、径1～2cmほどの炭色土塊、黄褐色土塊多く含む)
10. 茶褐色土 (締まりなし、径2～4cm炭褐色土塊多く含む)
11. 炭褐色土 (締まりなし、塊状)

9号土坑

1. 灰土 (流土)
2. 黄灰色土 (締まる)
3. 灰褐色土 (締まる、白色粒少量、炭褐色土、サビ痕含む)
4. 灰褐色土 (締まって堅い、白色粒、炭褐色土、サビ痕多く含む)
5. 灰褐色土 (やや締まる、白色粒若干、サビ痕少ない)
6. 暗灰褐色土 (締まりなし、炭褐色土塊少量含む)
7. 灰褐色土 (やや締まる、茶褐色土のサビの酸化産物土層がある、2～3cm炭褐色土塊を少量、白色粒若干含む)
8. 暗灰褐色土 (締まりなし)、白色粒少量、径1～2cm炭色土塊多く、黄褐色土塊少量
9. 茶褐色土 (締まりなし、白色粒少量、炭褐色土塊少量含む)



第35図 土坑出土遺物

第18表 3号土坑出土遺物観察表

No.	種別・器種	寸法 (cm)			色調	焼成	胎土	器形・調整の特徴	備考
		口径	底径	器高					
1	土師質土器・小皿	9.8	4.4	2.3	暗茶色	良	金雲母多い	底部糸切り	
2	土師質土器・小皿	9.4	4.8	2.1	茶褐色	良好	金雲母多量・赤色粒	底部糸切り	
3	土師質土器・坏	(15.4)		(3.7)	濃黒茶色	良	金雲母多い		

第19表 4号土坑出土遺物観察表

No.	種別・器種	寸法 (cm)			色調	焼成	胎土	器形・調整の特徴	備考
		口径	底径	器高					
4	土師器・坏		(3.0)	(1.3)	黒茶色	良好	赤色粒子	外面縦方向のミガキ 内面横方向のミガキ	

第20表 5号土坑出土遺物観察表

No.	種別・器種	寸法 (cm)			色調	焼成	胎土	器形・調整の特徴	備考
		口径	底径	器高					
5	土師質土器・小皿	(10.0)	4.4	2.6	茶色	良	金雲母多い	底部糸切り	
6	土師質土器・小皿	9.2	4.5	1.95	暗茶色	良	金雲母	底部糸切り	
7	土師質土器・坏	(13.4)	(7.0)	5.2	茶褐色	良好	金雲母多量	底部糸切り	
8	土師質土器・脚高台坏			(2.3)	暗茶色	良	金雲母多い		
9	土師質土器・脚高台坏			(2.3)	茶色	良好	金雲母多い		

第21表 8号土坑出土遺物観察表

No.	種別・器種	寸法 (cm)			色調	焼成	胎土	器形・調整の特徴	備考
		口径	底径	器高					
10	土師質土器・坏			(3.6)	黒茶色	良好	金雲母多い		

3. 溝

1号溝 (第15・37図、第22表)

本跡はA-2区、F-2グリットに位置し、4号溝を切り、9号住居跡に切られている。東西方向に緩やかに南にカーブを描きながら走り、調査区外に延びている。確認された規模は長さ1.5m、上幅150cm、下幅23~35cm、深さ58~60cmを測る。断面V字状をし、底面はほぼ平坦である。

時期は9号住居跡に切られていることから、5世紀前半以前と推測される。

2号溝 (第15・37図、第23表)

本跡はA-2区、E-2グリットに位置し、1号土坑に切られる。東西方向に走り、調査区外に延びている。確認された規模は長さ1.3m、上幅55~65cm、下幅10~20cm、深さ35~37cmを測る。断面はV字状をし、底面はほぼ平坦である。

遺物は中央の埋積土中位から纏まって出土した。

時期は須恵器坏(3)の年代から8世紀前半と考えられる。

3号溝 (第36図、図版3)

本跡はA-3区、I-3グリットに位置し、6号溝と平行しこれを切る南北溝である。確認された規模は長さ1.55m、上幅75~95cm、下幅15~30cm、深さ39~43cmを測る。断面はV字状をし、底面はほぼ平坦である。

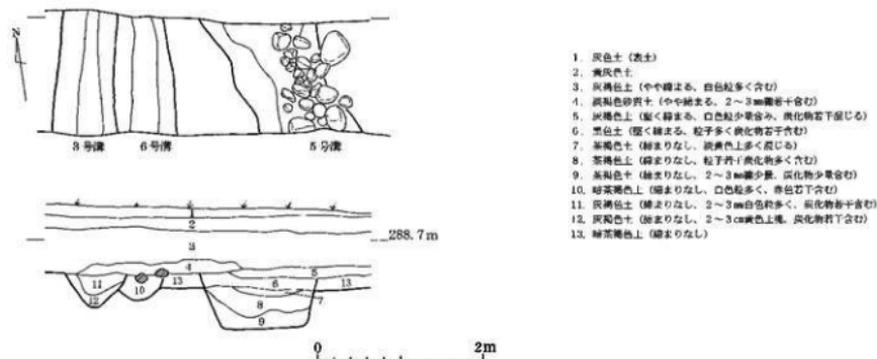
図示し得る出土遺物は無い。

4号溝 (第15・37図、第24表)

本跡はA-2区、G・F-2グリットに位置し、3・6号住居跡、1号溝に切られている。南北方向に走る溝である。確認された規模は長さ3.2m、上幅34~37cm、下幅10~17cm、深さ12~14cmを測る。断面はV字状をし、底面はほぼ平坦である。本跡は6号住居跡精査後に確認した。溝の規模が他の溝に比べ、小規模なため住居跡の凹溝の可能性もある。

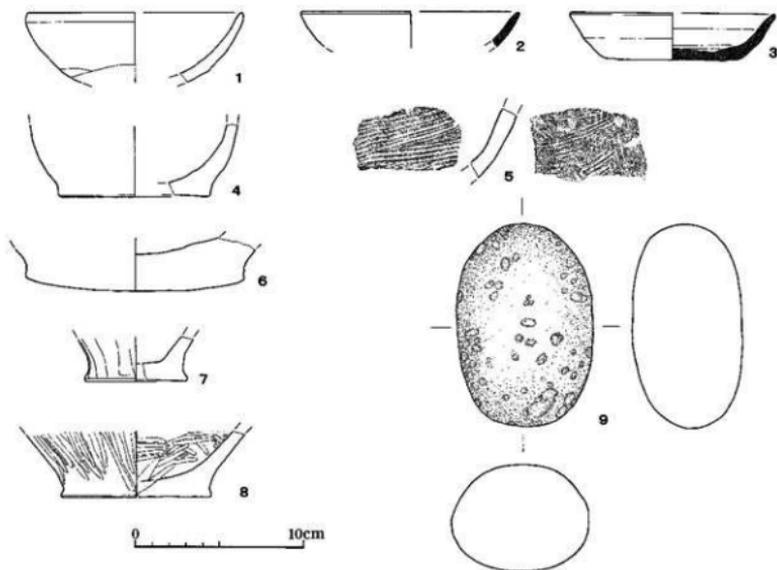
図示し得る出土遺物は無い。

時期は1号溝に切られていることから、5世紀前半以前と考えたい。



1. 灰色土 (表土)
2. 黄灰色土
3. 灰褐色土 (やや締まる、白色粒多含む)
4. 灰褐色砂質土 (やや締まる、2~3mm礫石多含む)
5. 灰褐色土 (堅く締まる、白色粒少量、炭化物若干含む)
6. 灰褐色土 (堅く締まる、粒子多く炭化物若干含む)
7. 灰褐色土 (締まりなし、湖褐色土多く含む)
8. 灰褐色土 (締まりなし、粒子若干炭化物多含む)
9. 灰褐色土 (締まりなし、2~3mm礫少量、炭化物少量含む)
10. 湖茶褐色土 (締まりなし、白色粒多、黄包若干含む)
11. 灰褐色土 (締まりなし、2~3mm白色粒多、炭化物若干含む)
12. 灰褐色土 (締まりなし、2~3cm黄色土塊、炭化物若干含む)
13. 湖茶褐色土 (締まりなし)

第36図 3・5・6号溝



第37図 溝跡出土遺物

第22表 1号溝出土遺物観察表

No.	種別・器種	寸法 (cm)			色調	焼成	胎土	器形・調整の特徴	備考
		口径	底径	器高					
6	土師器・壺		(13.0)	(3.3)	茶褐色	良	長石・石英・赤色粒		底部に準横の痕跡がある

第23表 2号溝出土遺物観察表

No.	種別・器種	寸法 (cm)			色調	焼成	胎土	器形・調整の特徴	備考
		口径	底径	器高					
1	土師器・坏	(12.6)		(4.3)	黒茶色	良	長石	内面横方向のミガキ 外面ヘラケズリ	
2	須恵器・坏	(12.8)	(6.4)	(2.2)	灰色	良	長石		
3	須恵器・坏	(12.2)	(8.8)	2.9	灰色	良	長石		
4	土師器・壺			(4.4)	茶褐色	良好	長石・赤色粒子		

第24表 4号溝出土遺物観察表

No.	種別・器種	寸法 (cm)			色調	焼成	胎土	器形・調整の特徴	備考
		口径	底径	器高					
5	土師器・壺			(4.2)	暗茶褐色	良好	長石・赤色粒子	外面横・縦方向のハケ目 内面横方向のハケ目	

第25表 5号溝出土遺物観察表

No.	種別・器種	寸法 (cm)			色調	焼成	胎土	器形・調整の特徴	備考
		口径	底径	器高					
7	土師器・壺		(6.0)	(2.7)	茶褐色	良	長石・金雲母多い	縦方向のハケ目	
8	土師器・壺		(8.8)	(4.0)	淡茶色	良好	長石・金雲母	外面縦方向のミガキ 内面縦方向のミガキ	
No.	種別	最大長	最大幅	最大厚	重さ	石質	特徴		備考
9	すり石	12.3	8.1	6.4	1.03kg	花崗岩			

5号溝 (第36・37図、第25表、図版3・5)

本跡はA-3区、I-3・4グリットに位置する。3・6号溝の東に隣接し、南北に走る溝であるが平行関係にならないようである。確認された規模は長さ1.6m、上幅90~110cm、下幅35~85cm、深さ50~53cmを測る。断面は箱形をし、底面は平坦である。東側法面寄りに、投棄されたものか川原石が多量に認められた。

時期は図示した遺物から古墳時代と考えられる。

6号溝 (第36図)

本跡はA-3区、I-3グリットに位置し、3号溝に隣接して走る南北溝である。確認された規模は長さ1.45m、上幅50~75cm、下幅23~35cm、深さ13~19cmを測る。断面はU字状をし、底面はほぼ平坦である。

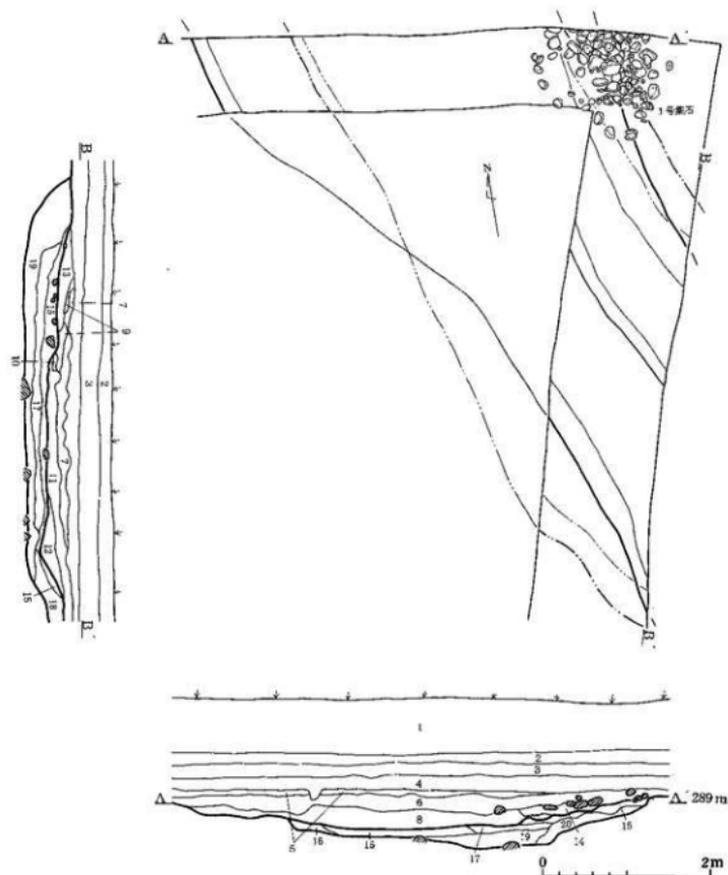
図示し得る出土遺物は無い。

4. 集石・道路状遺構 (第38・39図、第26表、図版3)

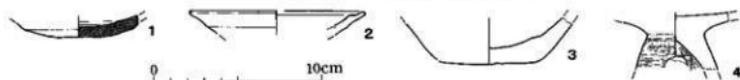
本跡はA-1・2区、A・B-2・3グリットに位置し、二面の道路面が確認された。上面(実線)の道路幅はA-1区では調査区を斜めに横断しているため実寸は計測できないがおおよそ2.5mを測り、A-2区では1mを測る。道路は厚さ10~15cmの黒色上の硬化層が、平坦面から東側の法面まで延びている。この平坦面が路面と考えられる。路面はA-1区では硬化面が認められ、A-2区では川原石が若干認められた。東側の法面は緩やかに立ち上がり、礫が貼りつけられているのが一部認められた(1号集石)。高さ30cmを測る。西側の立ち上がりは僅かである。上面の低位30cmに下面(二点破線)の道路面が認められた。下面の道路幅はA-1区で3mを測り、A-2区で2mを測る。路面は地山を掘り込んだままで、路面に礫が認められる。東側の法面は大きく外傾して立ち上がり、高さ50cm~60cmを測る。西側の法面は緩く立ち上がり、高さ10cmを測る。道路は北やや西寄りの方向を示し、調査区外に延びている。南の延長線上にあたるA-3区では遺構を確認することができなかった。

時期は図示した遺物からは判断し得ないが、本遺構の埋積上に相当する土は他の遺構の埋積土上位に認められることから、12世紀代と考えたい。

- | | |
|---------------------------|-------------------------------|
| 1. 磁土 | 21. 灰黄褐色土 (跡残りなし) |
| 2. 灰土 (灰土) | 22. 灰褐色土 (砂岩片含む) |
| 3. 赤褐色土 (跡まる) | 23. 暗灰褐色土 (跡残りなし) |
| 4. 灰土 (白砂砂、炭化物、サビ痕少量含む) | 24. 暗褐色土 (跡残りなし、白色砂片、炭化物含む) |
| 5. 白色砂 (灰土上層じり) | 25. 暗褐色土 (堅く締まる、上面に礫が埋められる) |
| 6. 暗褐色土 (跡残りなし、白色砂片少量含む) | 26. 暗褐色土 (跡残りなし、灰黄色土含む) |
| 7. 灰褐色土 (跡残りなし、暗褐色土含む) | 27. 灰褐色土 (堅く締まる) |
| 8. 灰褐色砂質土 (跡残りなし、サビ痕少量含む) | 28. 赤褐色土 (跡残りなし、灰褐色土、白色砂岩片含む) |
| 9. 暗褐色土 (跡残りなし、黒色土含む) | 29. 赤褐色土 (跡残りなし、砂子少量含む) |
| 10. 暗褐色土 (跡残りなし、灰黄色土少量含む) | 30. 暗褐色土 (やや締まる、暗褐色土を若干含む) |



第38図 1号集石・道路状遺構



第39図 1号集石・道路状遺構出土遺物

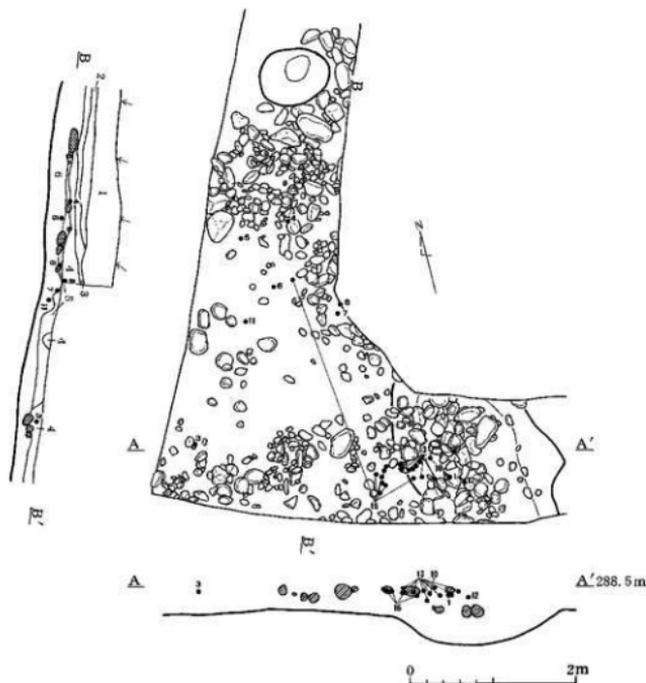
第26表 1号集石・道路状遺構出土遺物観察表

No.	種別・器種	寸法 (cm)		色調	焼成	胎土	器形・調整の特徴	備考
		口径	底径					
1	須臾器・環		(3.0)	(1.3)	灰色	良	長石・赤色粒子	
2	土師器・皿	(10.4)		(1.5)	淡茶色	良	長石・赤色粒子	
3	土師器・壺		(4.0)	(2.9)	暗茶褐色	良	長石・赤色粒子・金雲母	
4	土師器・高環			(3.4)	淡茶褐色	良	長石・赤色粒子	御部外面横方向のハケ目 内面縦方向のハケ目

5. 礫群 (第40~42図、第27表、図版3・5)

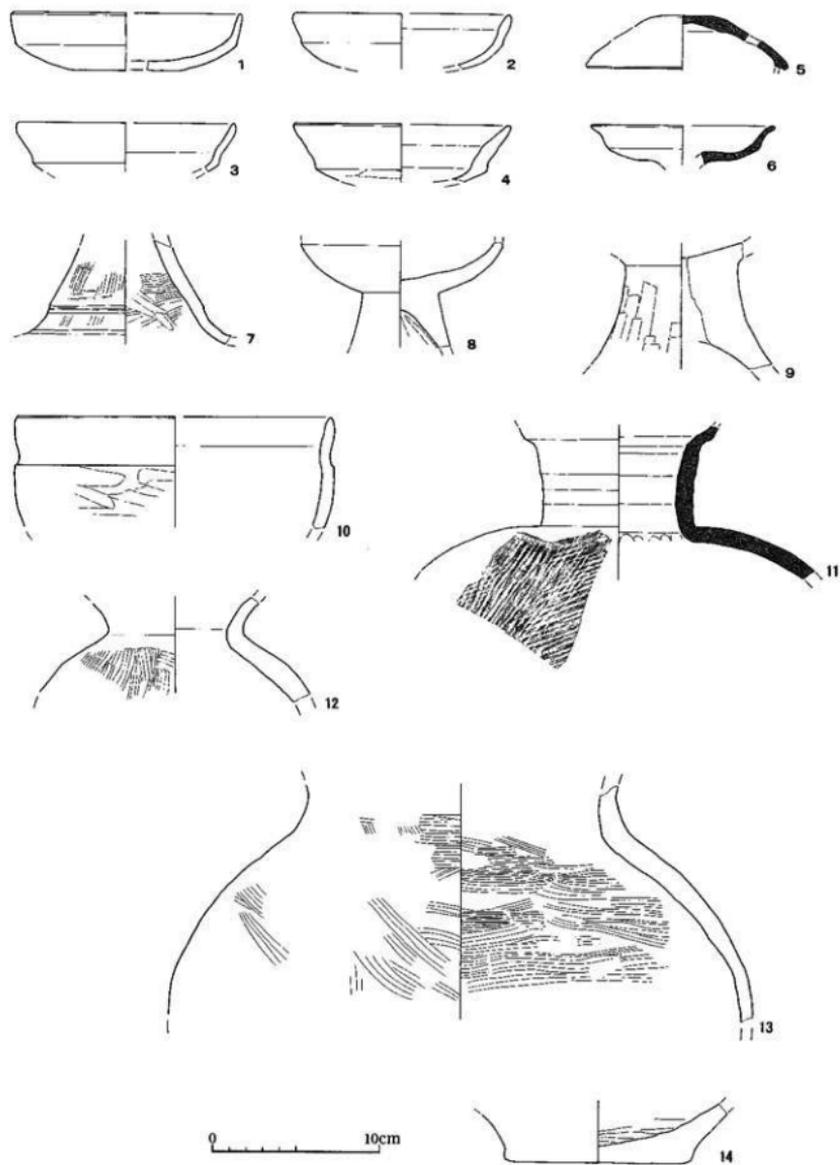
本跡はA-2・3区、I-1グリットに位置している。黒色上中で多量の川原石と土器片が出土した。礫は北が4号上坑付近で礫層と交じり合い、東が6号土坑の埋積土上層を覆っている。それ以外は調査区外に延びているものと推定される。土器片・礫はともに礫群の南東部と北部に集中し、中央は遺物・礫ともに出土量が少ない。また、部分的に攪乱により礫が移動している場所もある。礫は径40cm大のものから10cm大のものまであり、40cm大のものが僅かに地山に接した形で出土し、10cm大のものは全体に認められた。礫はほぼ同じレベルから出土しているが、平坦面を作ることなくまた、掘り込みも認められなかった。この遺構は自然になったものではなく、人為的なものと判断されるが、そこに作為的なものは読み取れない。

時期は遺構として判然としないものの、図示した以外他の時期のものが含まれていないことを考えれば、6世紀後半と考えられる。

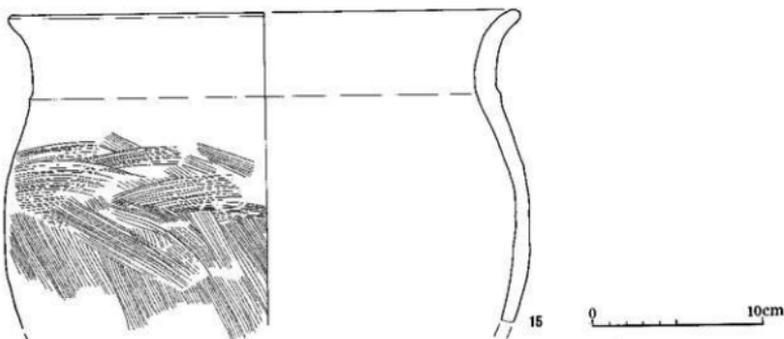


1. 灰褐色土 (やや粘りある、白色粒多く、灰色粒若干、サビ痕含む)
2. 灰褐色土 (やや粘りある、白色粒多く、サビ痕多く含む)
3. 暗灰褐色土 (粘りなし、白色粒・赤褐色少量含む)
4. 暗茶褐色土 (粘りなし、白色粒少量含む)
5. 黒色土 (粘りなし、白色粒少量含む)
6. 茶褐色土 (粘りなし、灰色土少量含む)

第40図 礫群



第41圖 礫群出土遺物 (1)



第42図 磁群出土遺物(2)

第27表 磁群出土遺物観察表

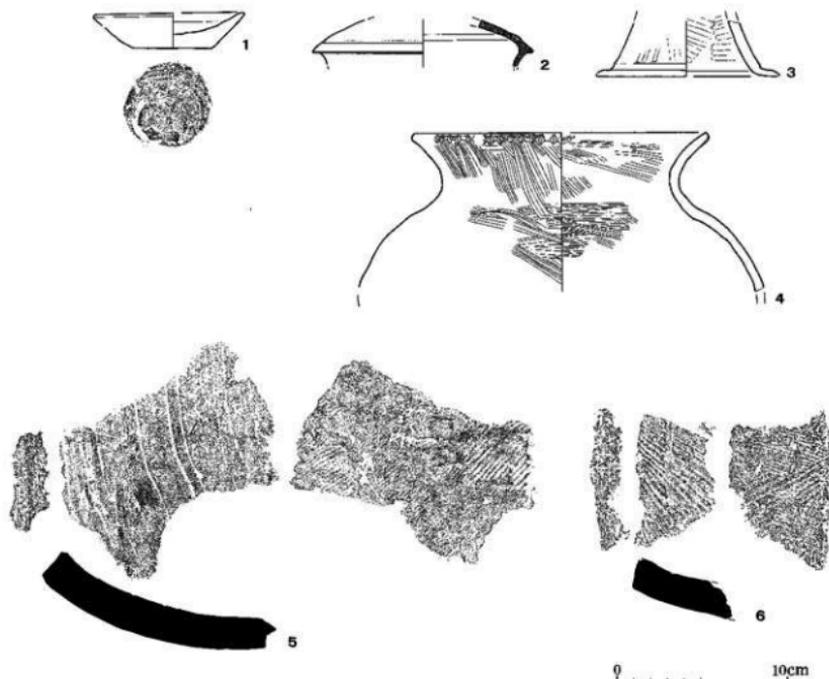
No.	種別・器種	寸法 (cm)			色調	焼成	胎土	器形・調整の特徴	備考
		口径	底径	器高					
1	土師器・坏	(13.4)		(3.55)	茶褐色	良	キヌやや稀い、金雲母・赤色粒		
2	土師器・坏	(12.6)		(3.35)	暗茶褐色	良好	密・赤色粒	内・外面横方向のミガキ	
3	土師器・坏	(12.8)		(3.0)	淡茶褐色	良	密	内・外面横方向のミガキ	
4	土師器・坏	(12.6)		(3.5)	橙褐色	良好	密・金雲母・赤色粒	外面体部下半ヘラケズリ	
5	須恵器・壺			(3.3)	青灰色	良	密		
6	須恵器・高坏	(10.8)		(2.3)	青灰色	良好	密		自然釉
7	土師器・高坏			(6.3)	黒茶色	良好	長石・金雲母微量	外面縦方向のハケ目後横方向のミガキ 内面横方向のハケ目後ナデ	
8	土師器・高坏			(6.5)	淡茶色	良好	長石・赤色粒子	脚部内面ヘラケズリ外面横方向のミガキ	
9	土師器・高坏			(7.7)	淡茶色	良	長石・赤色粒子	外面ヘラケズリ	
10	土師器・埴	(18.6)		(6.7)	淡茶褐色	良	密・砂粒	外面ヘラケズリ	
11	須恵器・壺			(9.3)	灰白色	良好	密	内面肩部指部縦外面体部タタキ目	自然釉
12	土師器・壺			(5.85)	橙褐色	良	石英・砂粒・赤色粒・小石	外面体部縦方向のハケ目	
13	土師器・壺			(14.2)	茶褐色	良	長石・石英・赤色粒	外面体部斜め方向のハケ目 内面体部横方向のハケ目	
14	土師器・壺	10.0		(3.7)	茶褐色	良	長石・赤色粒子	内面ヘラケズリ	
15	土師器・壺	(29.6)		(19.0)	茶褐色	良	長石・石英・赤色粒	体部外面ハケ目	

6. 遺構外・試掘調査出土遺物 (第43図、第28表、図版5)

今次調査で遺構に伴わない遺物で重要と思われるものを第43図に図示した。1・3はI-2グリット、2はB-2グリット、4はBトレンチ(試掘調査)から出土した。5はI-3グリットの調査区南限の攪乱礫層、6はI-3グリット3号溝の確認面から出土した。

5の叩き目は叩き板側辺に対し、約30~42度の角度で平行刻み目を彫り込む。刻み目は幅約1.5~2mm、側辺1cmあたり3本を数える。板の寸法は計測できない。刻み目中に側辺と平行方向に細かな木目が認められる。6の叩き目は叩き日が浅く、判然としないうえに刻み目の幅から考えて、5と同じ工具が使われたものと考えられる。

これらの瓦の生産窯としては、木跡の北西約2kmにある瓦陶兼窯業の天狗沢瓦窯跡が考えられる。本資料が同窯の製品であることを確かめるためには瓦の胎土分析を行わなくてはならないが、諸般の事情でそれを行っていないため、断定できない。しかし、報告書中で叩き目の分析が行われているため、本資料と比較してみた。その結果、本資料に該当するものは認められなかった。そのため、本資料が天狗沢瓦窯の未確認資料なのか、または別に生産窯が存在するかの今後の検討に帰す。



第43図 遺構外・試掘調査出土遺物

第28表 遺構外・試掘調査出土遺物観察表

No.	種別・器種	寸法 (cm)			色調	焼成	胎土	器形・調整の特徴	備考
		口径	口径	器高					
1	上師質土器・小皿	(8.6)	4.6	2.3	黒茶色	良	金雲母多く、長石微量	底部糸切り	
2	須恵器・壺			(2.9)	灰色	良好	長石		外面緑色の自然釉
3	土師器・高坏		(10.0)	(3.4)	黒茶色	良好	赤色粒子	外面縦方向のハケ目 内面横方向のハケ目	
4	土師器・壺	(17.4)		(9.2)	暗茶褐色	良	長石・石英	外面口縁部キザミ斜め方向のハケ目内面横方向のハケ目	
No.	種別	色調		焼成	胎土		特徴		備考
5	女瓦	茶褐色		良好	石英・白色粒・赤褐色粒		凸面平行叩き	凹面ヘラナデ	
6	女瓦	灰褐色		良好	白色粒・赤褐色粒		凸面平行叩き	凹面糸切り	

第3章 まとめ

今回の第10次調査区は松ノ尾遺跡の中央東寄りに位置し、北側に1次調査区が隣接している。調査区は第3回調査区全体図に見られるように極めて細長いものであった。そのため、確認された遺構のほとんどは全体を把握しきれなかった。確認した遺構は弥生時代竪穴住居跡2軒、古墳時代竪穴住居跡6軒、上坑1基、溝3条、奈良・平安時代竪穴住居跡9軒、土坑6基、溝1条、道路状遺構、時期不明土坑3基、溝2条である。時期別に表すと以下のとおりになる。

弥生時代	4号住居跡、8号住居跡
古墳時代	5世紀前半……………9号住居跡、1号溝、4号溝 6世紀第3四半期……………5号住居跡、10号住居跡 6世紀後半……………13号住居跡、磔群 7号住居跡、11号住居跡、13号住居跡、6号上坑、5号溝
奈良時代	8世紀前半……………2号溝
平安時代	9世紀前半……………17号住居跡 10世紀後半……………2号住居跡 11世紀前半……………16号住居跡、5号土坑 11世紀後半……………1号住居跡、6号住居跡、12号住居跡、15号住居跡、2号土坑、3号上坑、8号上坑 11世紀末～12世紀……………3号住居跡、14号住居跡、1号土坑、7号土坑 12世紀……………道路状遺構
時期不明	4号土坑、9号上坑、10号土坑、3号溝、6号溝

今次調査は前記したように、各遺構を全掘したのではなく、また、遺物がすべての遺構に対し時期を決定できるだけの出上が無かった。そのため、上記の時期設定は資料が豊富に出土し確定できるものを固定し、それ以外の遺構は切り合い関係から時期区分を行った。

上記の時期区分から言えることは、古墳時代後期と平安時代後期の二時期に、集落の画期が認められることである。松ノ尾遺跡は大小12回の本調査を経て、遺跡の様相が分かりつつある。その結果、遺跡の範囲は南北約700m、東西約400mにおよび、今次調査区はその東端に位置し、荒川の氾濫原に面している。調査の結果、遺構は氾濫原に隣接する微高地上に分布することが判明した。

今次調査の遺構外出土遺物の中で、集落の画期に含まれないものがあり、その一つに瓦の出上が上げられる。本市内には天狗沢瓦窯跡が所在し、以前よりその供給先の所在地に注目が集まっていた。最近では天狗沢瓦窯跡の至近に位置する本跡より瓦が出土していることから、注目され始めている。今次調査で瓦が出上ったことは、その供給地の候補として再確認された。しかし、遺物は遺構外の出上でありまた、同時期の遺構が確認できなかったのは重ね重ね残念である。

瓦の供給地としての松ノ尾遺跡の検証も含め、今後の遺跡の検討に期待する。

参考文献

- 末木 健 宮澤公雄 櫛原功一 1990 「天狗沢瓦窯跡 発掘調査報告書」 敷島町教育委員会
大高正之 1996 「松ノ尾遺跡」 敷島町教育委員会
小坂隆司 2004 「松ノ尾遺跡V」 敷島町教育委員会



A-2区全景 (北から)



A-3区全景 (西から)



1号住居跡 (北から)



1号住居跡カマド (北から)



2号住居跡 (西から)



2号住居跡カマド (西から)



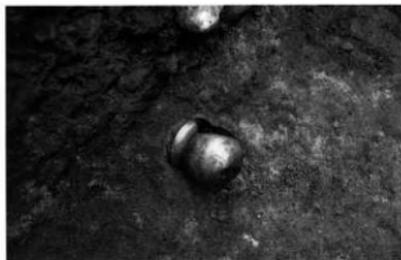
3号住居跡 (北から)



3号住居跡遺物出土状況 (北から)



5号住居跡（南から）



5号住居跡遺物出土状況（南から）



7・8号住居跡（東から）



11号住居跡（北から）



12号住居跡、2・3号土坑（南から）



13号住居跡（南から）



14・15号住居跡（南西から）



17号住居跡（南から）



3号土坑 (西から)



3号土坑遺物出土状況 (東から)



5号土坑 (南から)



3号溝 (南から)



5号溝 (南から)



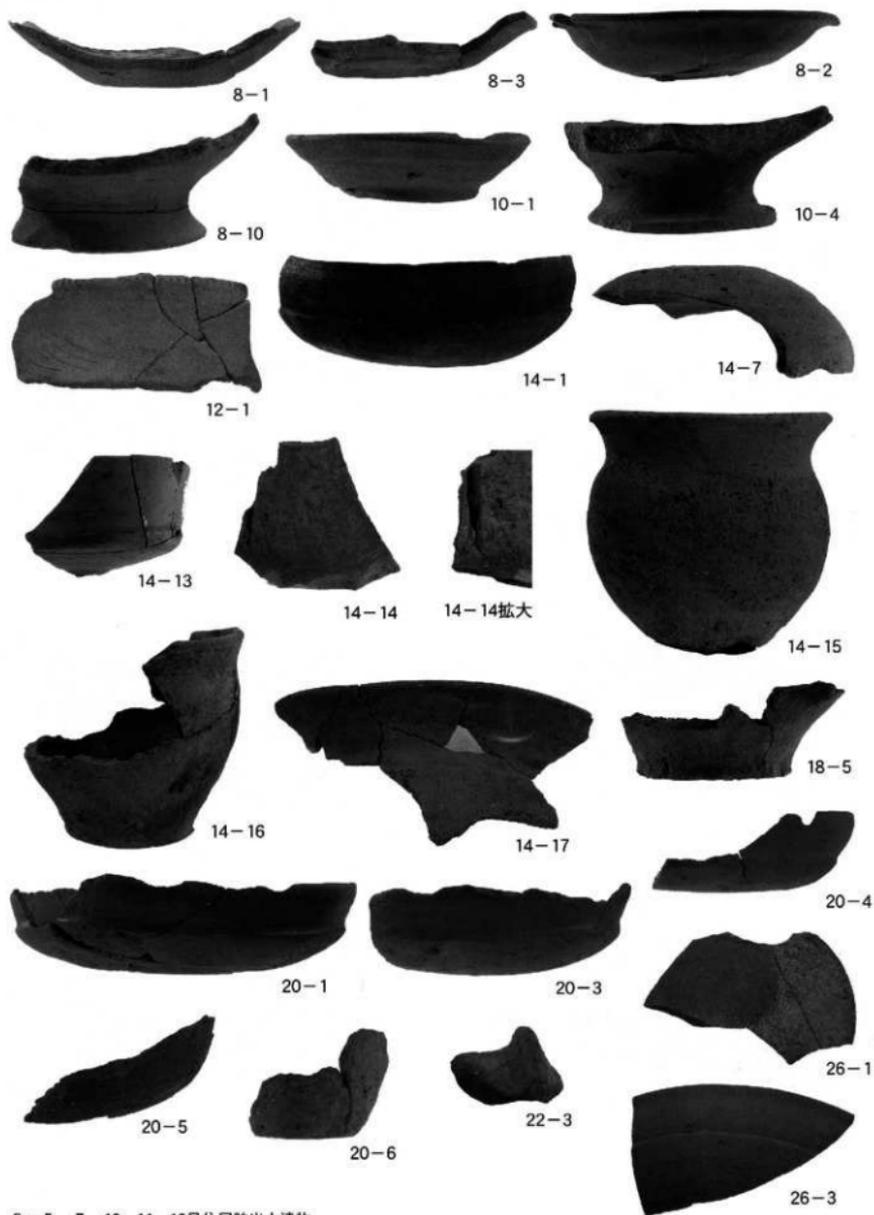
道路状遺構 (北東から)

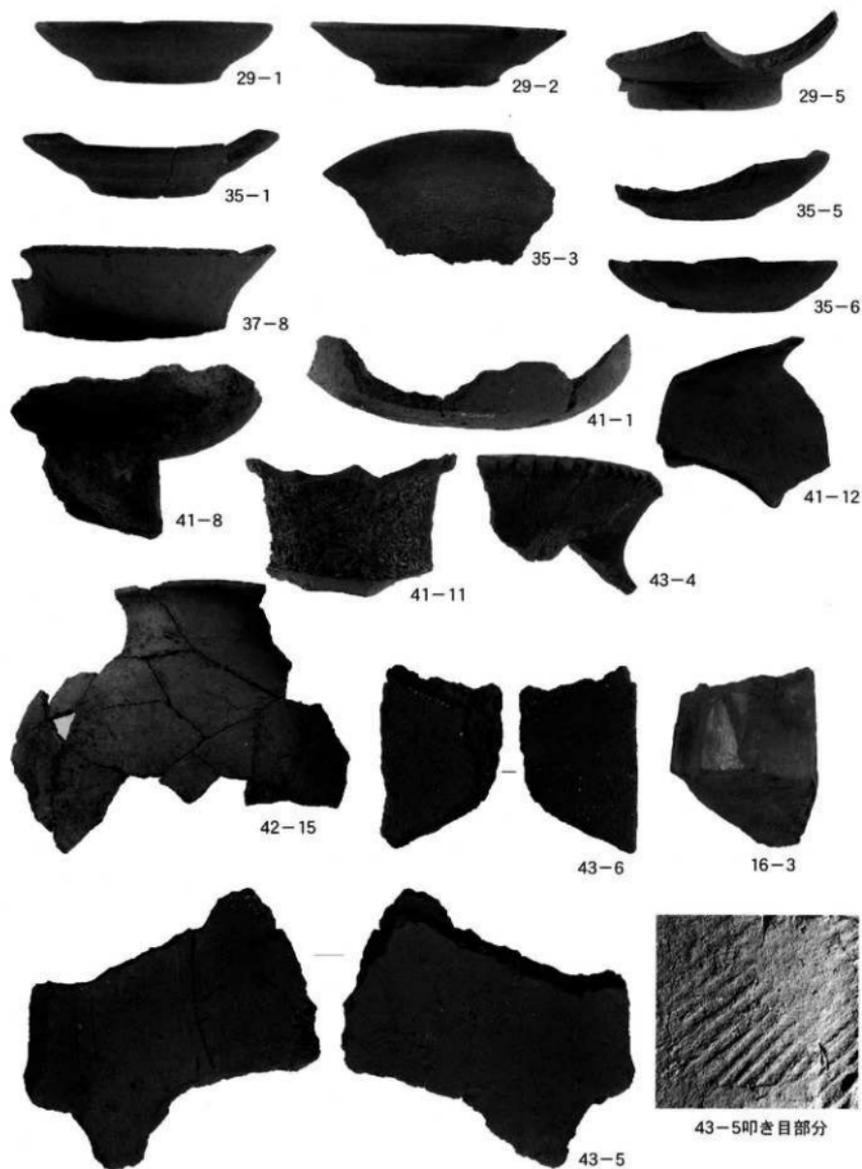


道路状遺構セクション (西から)



礫群 (南西から)





報 告 書 抄 録

ふりがな	まつのおいせき							
書名	松ノ尾遺跡X							
副書名								
巻次								
シリーズ名	甲斐市文化財調査報告書							
シリーズ番号	4							
編著者名	三輪孝幸・大高正之							
編集機関	甲斐市教育委員会							
所在地	山梨県甲斐市下今井236-2							
発行年月日	平成18年3月24日							
ふりがな 所取遺跡名	所在地	コード		北緯・東経		調査期間	調査面積 ㎡	調査原因
		市町村	遺跡番号	度分秒	度分秒			
まつのおいせき 松ノ尾遺跡	山梨県 甲斐市 中下条 1882-1 他	19210	18			平成15年 9月30日～ 平成15年 11月15日	374	商業用地 開発
所取遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項			
松ノ尾遺跡	集落	弥生時代 古墳時代 平安時代	聚穴住居跡 土坑 溝 道路状遺構 礎群	弥生土器 土師器 須恵器 灰釉陶器 土師質土器 瓦 水品	古墳時代後期・平安時代後期の集落			

甲斐市文化財調査報告 第4集

松ノ尾遺跡X

発行日 2006年(H18)3月20日
 発行 甲斐市教育委員会
 山梨県甲斐市下今井236-2
 印刷 株式会社 峽南堂印刷所

